

スポーツ庁 競技スポーツ課 御中

令和6年度スポーツ・インテグリティ推進事業
におけるスポーツ団体ガバナンスコードの実効化
に向けた支援事業報告書

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社

2025年3月14日



EY

Building a better
working world

本報告書は、スポーツ庁の令和 6 年度スポーツ・インテグリティ推進事業として、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社が実施した「令和 6 年度スポーツ・インテグリティ推進事業におけるスポーツ団体ガバナンスコードの実効化に向けた支援」の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

目次

第1章	本事業の背景・目的	P4
第2章	中央競技団体間の横連携を推進するワークショップ等の実施	P7
	2.1 説明会・ワークショップ実施内容	P8
	2.2 参加者アンケート結果纏め	P24
第3章	中央競技団体の財務情報のとりまとめ	P35
	3.1 対象団体とデータ収集結果	P36
	3.2 財務状況	P38
第4章	まとめ	P59
別紙 1	第1回ワークショップ「競技団体様へのアンケート調査振り返り」	
別紙 2	第1回ワークショップ「ガバナンスコード原則13への対応 ～日本ラグビーフットボール協会～」	
別紙 3	第2回ワークショップ「中央競技団体の財務分析結果のご説明」	
別紙 4	第2回ワークショップ「課題解決へ導く「原則 2」の体制整備 ～日本フェンシング協会の事例～」	

1

本事業の背景・目的

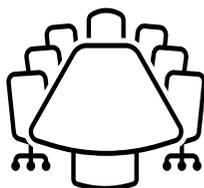
事業の趣旨及び経緯

- ▶ 中央競技団体は、対象スポーツに関する唯一の国内統轄組織として、多くのステークホルダーに対して様々な権限を行使し得るなど、大きな社会的影響力を有するとともに、各種の公的支援を受けており、国民・社会に対して適切な説明責任を果たしていくことが求められる公共性の高い団体である。
- ▶ 中央競技団体はスポーツ庁が令和元年度に策定したスポーツ団体ガバナンスコード（以下「コード」という。）に基づき、ガバナンスの確保に向けた取組を進めるとともに、統括団体による適合性審査を4年に一度受審しているものの、相談相手の不在によるノウハウの不足などの理由により、単に適合性審査基準を満たすことのみを目的とした取組になっているケースも散見される。
- ▶ そのため、中央競技団体が真にガバナンスの確保につながる取組を実施できるよう、コードの実効化に向けた支援が必要である。

当該事業の全体像

- ▶ コードの遵守に向けた取組を進める中央競技団体が、自発的・積極的にガバナンス確保の取組を進めることができるよう、中央競技団体間の横連携を推進するワークショップ等を実施する。
- ▶ 中央競技団体の財務情報のとりまとめを実施する。
- ▶ 中央競技団体の課題やニーズに応じて、追加で対応し得る施策がある場合には、積極的に提案し実施する。

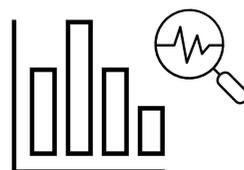
中央競技団体間の横連携を推進する ワークショップ等の実施



説明会/ワークショップ

- ▶ ワークショップの開催（2回以上）
- ▶ 中央競技団体間でそれぞれの取組状況の共有や同じ課題に悩む団体同士における情報交換が目的
- ▶ コードの原則 1 つ以上をテーマにした専門家による情報提供の実施

中央競技団体の財務情報のとりまとめ



財務情報分析

- ▶ 団体規模に応じた情報提供
- ▶ 中央競技団体の令和 5 年度財務情報の取りまとめ
- ▶ 比較、分類化の実施
- ▶ 比較分析による課題点の確認

成果報告書の作成



報告書の作成

- ▶ ワークショップ開催状況のとりまとめ
- ▶ ワークショップアンケートのとりまとめ
- ▶ 中央競技団体の財務情報のとりまとめ

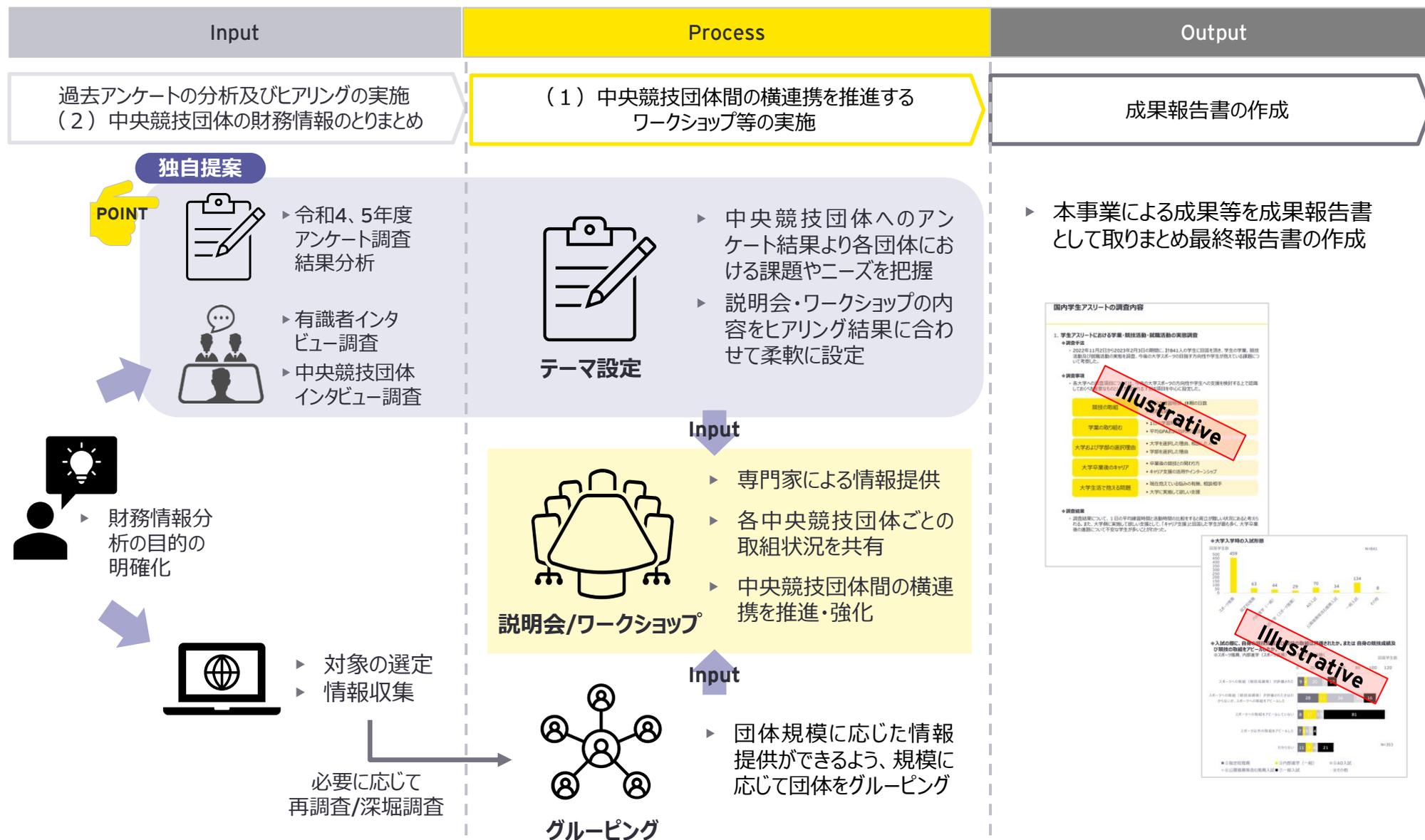
2

中央競技団体間の横連携を
推進するワークショップ等の実施



2.1 説明会・ワークショップ実施内容

説明会・ワークショップを2回実施。 財務情報のとりまとめ結果の提供や、他団体の取組状況の共有を実施。



第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

第1回ワークショップ	
日程	2024年11月27日（水）
場所	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 14階岸清一メモリアルルーム ルーム2、3
実施方式	対面のみ
出席対象	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 公益財団法人日本スポーツ協会 ▶ 公益財団法人日本オリンピック委員会 ▶ 日本パラリンピック委員会 ▶ 上記の加盟団体
申込方法	オンライン申し込み
申込数	25団体 39名
出席数	24団体 36名

議事次第		
時間	プログラム	備考
14:00	開会挨拶	EY
14:05	スポーツ庁挨拶	スポーツ庁
14:10	競技団体様へのアンケート調査振り返り EYストラテジー・アンド・コンサルティング 高田雄飛	EY
14:20	ガバナンスコード 原則13への対応 日本ラグビーフットボール協会様 ▶ ガバナンスハンドブック作成背景 ▶ ガバナンスハンドブックの活用実態 ▶ 地方組織のガバナンス構築に向けた取組	斉藤様
14:50	質疑応答	斉藤様
15:00	休憩	—
15:10	ワークショップご説明	EY
15:15	ワークショップ [15分 × 2ターン] ▶ 地方組織との関係性・課題 ▶ 地方組織のガバナンス構築に向けた取組・課題	—
15:50	閉会挨拶・アンケートのお願い	EY
16:00～	参加NF間によるネットワーキング（名刺交換等）	—

第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

当日参加者リスト

#	団体名	人数
1	JOC	2名
2	ワールドスケートジャパン	1名
3	全日本アーチェリー連盟	1名
4	全日本銃剣道連盟	1名
5	日本アメリカンフットボール協会	1名
6	日本クレ-射撃協会	1名
7	日本ゴルフ協会	2名
8	日本サッカー協会	1名
9	日本スポーツ芸術協会	1名
10	日本バイアスロン連盟	1名
11	日本バスケットボール協会	1名
12	日本パラダンススポーツ協会	2名
13	日本パラバドミントン連盟	1名
14	日本バレーボール協会	1名
15	日本フライングディスク協会	1名

#	団体名	人数
16	日本ブラインドサッカー協会	1名
17	日本ボクシング連盟	2名
18	日本ホッケー協会	1名
19	日本ラグビーフットボール協会	7名
20	日本山岳・スポーツクライミング協会	1名
21	日本肢体不自由者卓球協会	1名
22	日本自転車競技連盟	2名
23	日本身体障害者アーチェリー連盟	1名
24	日本相撲連盟	1名

第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

【講演②】 ガバナンスコード 原則13への対応 日本ラグビーフットボール協会様

「ガバナンスコード 原則13への対応」と題し、ガバナンスハンドブックを作成し、地方組織のガバナンス構築に向けた取組を積極的に行っている日本ラグビーフットボール協会 齋藤様より説明を実施。

▼ 原則13への対応@齋藤様



▼ 原則13への対応@齋藤様



JRFUガバナンスハンドブック



はじめに	03
都道府県協会への要請事項	
(1) 基本方針の策定・公表	06
(2) 組織体制の整備	08
(3) 経理の整備	10
(4) JRFUコンプライアンス体制との連携	12
(5) コンプライアンスへの理解	14
(6) 法務・会計対応の体制整備	16
(7) 情報開示	18
(8) 利益相反の管理	20
(9) 通報制度の利用	22
(10) 懲罰制度の理解と整備	24
(11) 紛争解決制度の利用	26
(12) 危機管理体制の整備	28
(13) 加盟団体規程の遵守	30

第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

【グループワーク】 ガバナンスコード 原則13

財務情報の集計結果を踏まえて、団体規模に応じた情報提供ができるよう、規模に応じて団体をグルーピングした班でワークを実施。
「地方組織との関係性・課題」「地方組織のガバナンス構築に向けた取組・課題」をテーマにそれぞれ15分でディスカッションし、意見交換を行った。

▼ グループワークの様子



▼ グループワークの様子



第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- グループワーク 意見交換概要 -

グループA

■グループで出たご意見

- ▶ 地方組織は任意団体。東京都では法人化に向けた対応が迫られているものの、設立費用（約20万円）を工面することが難しい。
- ▶ 個人の携帯で連絡が取りづらいため、情報連携には時間がかかる。一人での運営がメイン。FAXでのやり取りが基本。
- ▶ 47都道府県に協会はあるものの、法人化している地方組織は無い。8つのブロックで対応している。役員は10名で90%は自営業者で、ボランティアで対応している。事務所は自宅が多い。法人化については、誰に聞けば良いのか分からない。
- ▶ 情報連携方法は手紙が主。メールを見ない、利用できない高齢者が多い。
- ▶ 各地方組織と情報連携するためのシステムがあり、情報連携ツールを利用。地方は任意団体。
- ▶ そもそも都道府県協会が無い。ブロック制と併用。
- ▶ 理事を含め地方組織を運営するなり手がいない。

グループB

■グループで出たご意見

- ▶ 大学は管轄内だが関係が薄い。高校スポーツだと都道府県協会が整備されているが、大学スポーツの場合、都道府県協会を必要としない。
- ▶ 都道府県協会が揃っていない。
- ▶ 都道府県協会はあるものの、人材不足によりガバナンス対応が容易ではない。
- ▶ 都道府県で分裂してしまっている組織がある。
- ▶ プロとアマで統括団体が異なるため組織文化も違い、プロからの影響を受ける。
- ▶ 大学や高校は管轄外となっている。
- ▶ そもそも都道府県協会が無い。

グループC

■グループで出たご意見

- ▶ 都道府県協会は揃っていない。地方によってはやる気もあり大会運営など協力的ではあるものの、法人化に対しては後ろ向きな状況。
- ▶ 地方組織もそうだが、法律の関係で他省庁との連携も鍵となる。
- ▶ オリンピックに関係する競技と関係しない競技の担当者によって、事業への興味が二分化している。
- ▶ ボランティアで大会の手伝いなどを実施しているものの、種目の違いに応じて団体の中で分裂した方が良いという意見も出ている。
- ▶ 団体として、規則でどこまで拘束すべきか疑問を感じている。

■グループ全体としての意見

- ▶ 地方組織における人材不足に加え、高齢化が進み後継者がいない。人材育成に課題がある。
- ▶ 地方や県によって選手やスタッフの人数に差があり、財源が偏ってしまう。

第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ - グループワーク 意見交換概要 -

グループD

■グループで出たご意見

- ▶ 地方にそもそも普及していない。
- ▶ 障がい者スポーツは普及が課題。
- ▶ まちづくりと兼ねて、競技の普及振興に取り組んでいる自治体をタウンと認定している。地域の人を巻き込んで「する」「みる」「ささえる」を実現させ、人を育てている。
- ▶ 地方の状況を把握できていない。
- ▶ アンケートを実施しようとしているところ。
- ▶ 登録料が収入の大半を占めている状況。入場料ではあまりお金を取らない。
- ▶ 地方や団体によって登録料がバラバラである例) 7,000円～70,000円。
- ▶ 都道府県の力が強い。理事会で登録料の改定を検討することを宣言したが、どうやって説明するかが課題。

グループE

■グループで出たご意見

- ▶ 協会の組織構造は、協会> 8地区ブロック> 47都道府県となっている。
- ▶ 地区には理事と評議員がいて連携は取れているが、その下の都道府県レベルでは難しい。
- ▶ 国スポの際、全47の都道府県協会と会議を実施。
- ▶ 47の協会を9ブロックに分けており、各ブロックから中央競技団体の理事を1名選出することで連携を実現。
- ▶ 中央競技団体の方針が明確でない故に、都道府県協会はそれぞれの判断で活動している状況。
- ▶ 中央競技団体、ブロック、都道府県協会の連携は喫緊の課題。
- ▶ eスポーツなどを合わせると9種の競技が存在する。
- ▶ 理事は中央競技団体の加盟団体から選任されるため、所属元に有利となる発言も見受けられる。
- ▶ 加盟団体と連携した地域イベントの開催を模索。
- ▶ 地方団体は無く、全34チームと直接協会が連携。
- ▶ 年2回クラブチームのミーティングにて情報連携を実施。
- ▶ 今後、研修動画をチームへ展開するなど、情報発信を強化していく。

グループF

■グループで出たご意見

- ▶ 協会の組織構造は、協会> 9つの地域> 47都道府県> 市町村の子供達という経路である。
- ▶ 協会は47都道府県までしか管理できていない。
- ▶ プロスポーツクラブでは職員の不祥事が多発しており、統制の強化やコントロールする人材の確保が課題。
- ▶ 地方から情報を吸い上げるルートが確立されておらず、問題点が理事会に上がってこない。
- ▶ 中央から地方への伝達の機会も増やすべき。
- ▶ 競技の特性上男性の割合が高く、経験者の女性理事を増やすことが容易でないため、外部の有識者を理事として迎えている。
- ▶ 競技の人気は高まっており、協会の規模は大きくなる一方で、県との格差が拡大している。
- ▶ SDGsや社会貢献等が求められることが増え、各地域単独での対応が難しく、サポート方法に苦慮。
- ▶ 地域によって連携が取れているエリアとそうでないエリアが存在する。
- ▶ ブロックごとに理事がいるが、対応の密度にばらつきがあり、品質の均一化が課題である。

第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

第2回ワークショップ	
日程	2025年2月14日（金） 14:00-16:30
場所	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 14階岸清一メモリアルルーム ルーム2、3
実施方式	対面のみ
出席対象	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 公益財団法人日本スポーツ協会 ▶ 公益財団法人日本オリンピック委員会 ▶ 日本パラリンピック委員会 ▶ 上記の加盟団体
申込方法	オンライン申し込み
申込数	26団体 31名
出席数	24団体 28名

議事次第		
時間	プログラム	担当
14:00	開会あいさつ および スポーツ庁挨拶	EY/スポ庁
14:05	中央競技団体の財務分析結果のご説明 EY新日本有限責任監査法人 中村哲士	EY
14:20	ガバナンスコード 原則2への対応 日本フェンシング協会様 ▶ フェンシング協会の抱える課題 ▶ 多様性に寄るイノベーション ▶ アスリート委員会による自主性の促進 ▶ 雑音の無い環境整備	曾良中様
14:50	質疑応答	曾良中様
15:00	休憩	—
15:10	ワークショップご説明	EY
15:15	グループワーク [20分 × 2ターン] ▶ 組織の現状や課題と目指す姿 ▶ 適切な組織運営を確保するための役員体制 の整備に関してどのような取組が必要か検討	EY
15:55	閉会挨拶・アンケートのお願い	EY
16:00～	ネットワーキング（名刺交換等）	—

第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

当日参加者リスト

#	団体名	人数
1	JOC	1名
2	日本バスケットボール協会	2名
3	全日本スキー連盟	2名
4	全日本柔道連盟	1名
5	全日本銃剣道連盟	1名
6	日本カヌー連盟	1名
7	日本スカッシュ協会	1名
8	日本ソフトテニス連盟	1名
9	日本トライアスロン連合	2名
10	日本バイアスロン連盟	1名
11	日本バドミントン協会	1名
12	日本パラ・パワーリフティング連盟	1名
13	日本パラカヌー連盟	1名
14	日本パラバドミントン連盟	1名
15	日本ハンドボール協会	1名

#	団体名	人数
16	日本スポーツ芸術協会	1名
17	日本ボクシング連盟	2名
18	日本ホッケー協会	1名
19	日本フェンシング協会	1名
20	日本自転車競技連盟	2名
21	日本馬術連盟	1名
22	日本サッカー協会	1名
23	日本ブラインドサッカー協会	1名
24	日本山岳・スポーツクライミング協会	1名

第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

【講演②】 ガバナンスコード 原則2への対応 日本フェンシング協会様

「ガバナンスコード 原則2への対応」と題し、適切な組織運営を確保するため、多様性の確保を図っており、また、理事を通じて、アスリート委員会の意見が理事会へ適切に反映されるような仕組みがとられている日本フェンシング協会 曾良中様より説明を実施。

▼ 原則2への対応@曾良中様



▼ 原則2への対応@曾良中様

第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 実施概要 -

【グループワーク】 ガバナンスコード 原則2

財務情報の集計結果を踏まえて、団体規模に応じた情報提供ができるよう、規模に応じて団体をグルーピングした班でワークを実施。

「組織の現状や課題と目指す姿」「適切な組織運営を確保するための役員体制の整備に関してどのような取組が必要か」をテーマにそれぞれ20分でディスカッションし、意見交換を行った。

▼ グループワークの様子



▼ グループワークの様子



第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- グループワーク 意見交換概要 -

グループA

■グループで出たご意見

- ▶ 現在理事は10名おり、内2名は規定に沿って有償となっている。
- ▶ ガバナンスコードで制定すべきルールはある程度カバーできているが、周知や反映において実際に機能しているかは疑問。コードの目的と各担当者の業務との関連性がリンクすると良いと感じる。
- ▶ ガバナンスコードが重要であり理解に努めているものの、言葉の表現を含めて理解した上で団体内部に説明することに不安を覚える。また、パラ団体においては視覚障がい者などもあるため、そういった人たちにも説明しやすい資料があると良い。
- ▶ 現在理事が5名しかおらず一人ひとりの責任が重く（専門領域の掛け持ち）、多様性にも課題がある。
- ▶ 事務局長ですらパラサポの助成で成り立っており、財政の健全性に大きな課題を有する。
- ▶ 理事の数は30名から14名に減少（ガバナンスコードにより定年を迎えた）。
- ▶ 外部理事を配置しているものの、全く機能していない（派閥問題）。
- ▶ 各委員会において、物事を決めて理事会に上げることはできている。
- ▶ 組織運営に携わる人数は不足しており、多角的な意見が生まれにくい。中心となってチームを引っ張ることができ、かつチームの多様性を確保できる人材が必要。
- ▶ 理事は特定業界から就任することが多く、女性の比率を上げることはできない。

グループB

■グループで出たご意見

- ▶ 補助金に頼っており、入金されるまでの資金繰りが厳しい。
- ▶ 女性理事の登用で「ブロック理事の女性理事輪番制」という独自の取組を実施しており、適合性審査の好事例に採用されている。
- ▶ 競技による文化の違いがあり、意見統合が難しい。
- ▶ 基金を集めながら運営している状況。
- ▶ 年間の活動サイクルとして2月頃は資金が厳しく理事が立て替えることもある。
- ▶ 専門知識のある人材が不足し、理事も知り合いにお願いして入ってもらっているため、様々な仕事を依頼するのも遠慮がちになってしまう。
- ▶ 組織が小さくブロック団体はないが、アスリート委員会は設置している。
- ▶ パラ団体は組織規模が小さく、ガバナンス構築対応もできる範囲に限られる。
- ▶ 役員在任10年目の人がいるため、選考委員会の設置を検討している。
- ▶ アスリート委員会は年齢や実績を踏まえ男女バランス良く選出している
- ▶ チーム競技のため、選考でも個人ではなくチームで選出する。選出方法について、最良と指摘されることもあるため、客観的な指標の整備が必要。
- ▶ パワハラ・モラハラの意見箱があるが、正当な意見とワガママとの峻別が難しい。
- ▶ アスリート委員会はありますが、選手は社会経験の少ない選手が多く、成績が良いから選出すべきというわけでもなく、適正な組織運営が難しい。

第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ - グループワーク 意見交換概要 -

グループC

■グループで出たご意見

- ▶ アスリート委員会はあるものの実効性が低い。アスリートは参加するが、インセンティブが無いため意欲が低い。
- ▶ 中央や地方、プロそれぞれが自分達の役割を確認する機会を設けたい。
- ▶ 「参加するスポーツ」故に観客を呼ぶことに苦戦している。収益を得る方法を確立させて、自立した経営を目指している。
- ▶ 理事の中で声大きい人はそれだけ想いも強い人。10年の任期をつけるのではなく、私欲に染まらない健全な議論ができる組織作りをすべきと感じる。
- ▶ 男性スポーツが故に、女性理事の確保に苦戦。外部理事の確保を試みるも、競技の知識がなく、熱量にギャップがある状態。
- ▶ 本末転倒だが、理事会は適合性審査の年度にギアが入る状況。
- ▶ 理事の役割を明文化して、資質やスキル、自覚を判断する仕組みが必要。
- ▶ 「誰のため」「何のための」を明確にした上での議論が必要。
- ▶ 国際競技連盟とのコミュニケーションを図る上で、理事10年の任期は短い。
- ▶ 都道府県協会からの推薦理事はほぼ男性の状況。まずは地方組織における女性活躍の場を整えることが重要課題。
- ▶ 理事20名のうち、約半数は高校や大学などの関係機関の関係者で成り立っており、全て男性。外部理事の枠は2、3名であり、女性理事の確保が困難。
- ▶ 理事会は年に7回開催しているが、決めるものが多く内容のスリム化が急務。

グループD

■グループで出たご意見

- ▶ 理事会に多様なメンバーを入れ、次から次に新しいことを始めたところ、地区組織がついて来られなくなっている。
- ▶ 女性理事の数が揃わない。競技出身者でも理事になる人がいない。
- ▶ 単純に女性等の人数合わせを行っていない。有能な人を入れるようにしている。
- ▶ 理事を公募したところ数十名の応募があり、その中から女性を含むメンバーを選出している。必要な能力・実績の要件を踏まえた公募である。
- ▶ 競技担当理事は競技出身者にするなど、必要な能力を集めるべきである。



2.2 参加者アンケート結果纏め

第1回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ

- 参加者向けアンケート -

第1回ワークショップ	
調査期間	2024年11月27日（水）～2024年12月6日（金）
調査対象	説明会・ワークショップ参加者
回答数	25件
調査方法	Webフォームを用いて、EYよりワークショップ参加団体へ依頼

アンケートフォーム



2024年11月27日に実施した、スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップにご参加頂きありがとうございました。
お手数お掛けいたしますが、本日のワークショップについてアンケートへのご協力をお願いいたします。
なお、こちらのアンケート結果は事務局内のみで共有し、今後の改善に向けて参考にさせていただきます。

* 所属団体をご記載ください。

* お名前をご記載ください。

* メールアドレスをご記載ください。

* ワークショップ全体の満足度はいかがでしたか。

- 非常に満足 多少満足 どちらでもない 多少不満 非常に不満

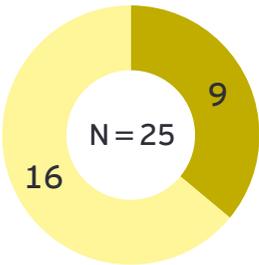
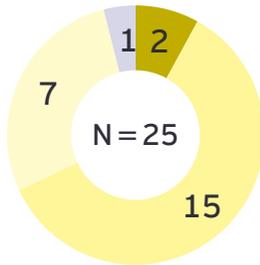
▼アンケートフォームリンク

https://globaleysurvey.ey.com/jfe/form/SV_6mPVQU4FaaUjRjk



第1回ワークショップのアンケート結果

→ ワークショップの満足度は高く、各団体にとって有意義なものとなっており継続実施の声あり

	ワークショップ全体の満足度	昨年度調査の振り返りの満足度
回答	 <p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>	 <p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>
自由記述 (回答理由)	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 他競技団体との情報交換ができた。 ▶ ご参加の方の貴重なお話を聞くことが出来ました。 ▶ 他団体様からヒントをいただきました。 ▶ 他団体の実情をお聞きできてとても有意義でした。 ▶ ラグビーの実践について非常に良かった。他競技団体の現状と課題も共有でき今後に役立てたい。 ▶ 他協会との問題点や考えを聞ける場は極めて希少で、同じ様な悩みを持っていて話しあえたのはよかったです。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 活発な意見交換が出来たが話題が散漫になってしまった。 ▶ 他の中央競技団体さんの実情や取り組みなど聞け、また共有できたので。しかしながら、もちろんですが、解決策などはなかなか見つからず難しいというのもわかった。 ▶ ワークショップの時間が少し足りなく感じました。 ▶ ファシリテーターがうまく進行していただき、ワークショップが有意義であった。基調講演も理解しやすく良い内容であった。 	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 他の団体の状況がよくわかった。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 原則2以外の原則1、13、の割合が高い事の理解できたこと。 ▶ ガバナンスコードで各団体がどんな困り事があるのか知れたから。 ▶ 原則2について、弊会でも対応課題となっており、56%を超える中央競技団体が同様に課題感を持っていらっしゃることを伺い参考となりました。 ▶ 参考になりました。 <p>【どちらでもない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ あまり深い説明でもなかった印象があり、参考として伺っていたため。 <p>【多少不満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 重要な話と思いながら、さっさとスライド投影で終わってしまい、後に残っていないため。

第1回ワークショップのアンケート結果

→ 他団体の事例紹介についての満足度は高く、更なる理解に繋がっている

	原則13への対応（ラグビーの事例紹介）の満足度	ワークショップの満足度
回答	<p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>	<p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>
自由記述（回答理由）	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 今後の運営に参考にできる情報をたくさん聞くことができました。 ▶ 現状からの課題を再検討することができた。 ▶ 具現化できるかは未知だが、ガバナンス対応のやることリストとして具体的な施策が見えたことはとてもありがたい。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各都道府県連盟については活動状況により一律に対応することなく、規模・活動に応じて指導・支援する必要性を感じた。 ▶ ラグビーフットボール協会様の取り組みは、ガバナンス・コンプライアンスの向上自体を中央競技団体単体の課題と捉えず、都道府県協会＋登録チームに当事者意識を持ってもらうための取り組みで全国まで行き届いた施策だと感じました。特に登録チームへのアプローチについては、重要でありながら、一方で対象とするチーム数も多く費用面・労力面でも二の足を踏んでしまいやすい領域だと認識しております。そこに対して、目的意識を高く持ち、取り組みを推進された部分は弊社内部でも持ち帰り、情報共有したいと考えております。 <p>【どちらでもない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関連団体連携委員会を設置し地域との連携も行っていますが、まだまだ連携不足を今回のワークショップで認識しましたので、上記の満足度としました。 	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 他競技団体の実情を知ることができました。 ▶ 現状を課題解決することのヒントとなった。 ▶ 大小様々な協会の話聞いて参考になりました。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ分けワークショップの部分の時間がもう少し欲しかった。 ▶ とても勉強になった反面、不十分なまま終了となった印象があるため。 ▶ グループの各団体の状況、悩みは大変参考となった。 ▶ 他の競技団体の様子が聞け良かった。もう少し時間があればと感じた。 <p>【どちらでもない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ワークショップ自体は有益なものであると思いますが、その規模や構成、そこから繋がる課題などが余りにも違うと、重なる点も少ないため。 ▶ ガバナンスコードへの対応のみならず、補助金の交付・使途の確認など実運用に関わる情報交換ができ大変勉強になりました。

第1回ワークショップのアンケート結果

→ ワークショップは各団体の学びの場となっており、行動変容のきっかけとなっている

	ワークショップの理解度が深まったか	ワークショップの学びを活かそうと思うか
回答	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない</p>	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない</p>
自由記述 (回答理由)	<p>【そう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 細かな事例を含めて説明していただいたので理解が深まりました。 <p>【ややそう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ラグビーについての理解はしっかりできた。他のグループの種目についても何となく感じはつかめた。 ▶ 自団地で考えていた施策とは異なる観点の事例もあり、勉強になったため。 ▶ グループ各団体の意見が参考になった。 	<p>【そう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地方の団体は現在ありませんが、将来的に活かせると思います。 ▶ ハンドブックなどすぐに利用できそうな例を出してもらったので活かせると思いました。 ▶ 学んだ好例をもとに実施、振り返りをしてみないと改善につなげられないと感じるため。 ▶ ラグビー協会様の事案を基に、当協会でも活かしたいと思います。 <p>【ややそう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ラグビーを見習いたいですが、当連盟はまだそのレベルまでいっていない。 ▶ 各都道府県の実況に応じた対応をしなくては徹底は難しいと感じた。 ▶ 競技人口の少ない団体では実行が難しいものも含まれていたが、ヒントにはなった。 ▶ 他団体の課題点や考え方について知ることができ、良い機会であった。今後も他団体とコミュニケーションをとる機会があれば積極的に参加したい。 <p>【どちらでもない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ベストプラクティスをもっと聞ければ参考になったと思うが、状況の共有までにとどまった。

第1回ワークショップのアンケート結果

	説明会内で質問できなかったことや今後の相談・要望等	今回のワークショップの運営に対するご意見
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 今回のように、定期的にワークショップや受付・相談できる窓口があるというのがとても大切でありがたいと思いました。 ▶ 質問は特にありません。ワークショップでなくても、今後もスポーツ団体内で共通の学びとなる情報を展開いただけると大変嬉しいです。よろしく願いいたします。 ▶ 各都道府県連盟の法人化の必要性について。 ▶ 競技団体同士の横連携の機会は少ないので、今回は貴重な機会となりました。EYさんがファシリテートしていただいたことでグループワークの話が盛り上がりました。また参加させていただきたいと思います。 ▶ ガバナンスコードの概要について説明資料をスポーツ庁でつくっていただくと、展開が楽になるのでお願いします。現在は13の原則を自分で書き出しているが、概要があると周知しやすいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 他競技団体の実践事例もお聞きできればと思いました。 ▶ 他の競技団体の状況が知れた事、直接ご挨拶させていただけた事は大変有意義な時間でした。ありがとうございました。 ▶ ありがとうございました。他の団体さんとの交流機会として、ガバナンスコードに伴うワークなどは共通の課題と思います。それ以外には、商業化に向けた対応や、人口減少への対応、安全対策など、これらは互いに競うものでもないので、むしろ互いの知恵を共有することで、良い取り組みが生まれたりするように思います。その他、夏前くらいに自己説明に向けた意見交換会や、春先には、新任の担当者向けの説明会など開催頂けるとありがたいです。今後とも宜しく願います。 ▶ 大変参考になりました。ありがとうございました。 ▶ 貴重な場を設けていただき、ありがとうございました。ワークショップの時間を増やすか、時間にあわせた進行をファシリテーターの方に共有いただくなど、より深く議論できる形となればよりありがたいと感じます。 ▶ 他団体の課題点や考え方について知ることができ、良い機会であった。今後も他団体とコミュニケーションをとる機会があれば積極的に参加したい。 ▶ もう少しお時間があればよりコミュニケーションがとれたかと思う。 ▶ 役員の高齢化、後継者不足、スタッフの有料化等の具体的な課題への対応方法やヒントが聞けるともっと良いと思います。 ▶ 企画運営の皆様おつかれさまでした。ありがとうございました。

第2回スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップ - 参加者向けアンケート -

第2回ワークショップ	
調査期間	2025年2月14日（金）～ 2025年2月26日（水）
調査対象	説明会・ワークショップ参加者
回答数	20件
調査方法	Webフォームを用いて、EYより加盟団体へ依頼

アンケートフォーム



2025年2月14日に実施した、スポーツ団体ガバナンスコードに関するワークショップにご参加頂きありがとうございました。お手数お掛けいたしますが、本日のワークショップについてアンケートへのご協力をお願いいたします。
なお、こちらのアンケート結果は事務局内のみで共有し、今後の改善に向けて参考にさせていただきます。

* 所属団体をご記載ください。

* お名前をご記載ください。

* メールアドレスをご記載ください。

* ワorkshop全体の満足度はいかがでしたか。

- きわめて満足 多少満足 どちらでもない 多少不満 非常に不満

▼アンケートフォームリンク

https://globaleysurvey.ey.com/jfe/form/SV_25K20kyvhuSE658



第2回ワークショップのアンケート結果

→ ワークショップの満足度は非常に高く、各団体にとって有意義なものとなった

	ワークショップ全体の満足度	中央競技団体の財務分析結果のご説明の満足度
回答	<p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>	<p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>
自由記述 (回答理由)	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 他団体の意見を聞くことができ参考になりました。 ▶ 他団体の意見徴収は有益でした。 ▶ 皆様の不安や悩みが直接聞けました。 ▶ 情報交換を沢山できました。ありがとうございます！ ▶ フェンシング協会さんの情報が非常に役立ちました。 ▶ ガバナンスコードという制度作成の話だけでなく、なぜ？何のために？誰のために？が明確に理解できる内容であった。 ▶ 他のNFの状況を生の声で聴くことができたため。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 他団体と問題、課題を共有できた。 ▶ 競技団体で事情が違いすぎて参考にするのは難しいが、それでも、ヒントはありました。 ▶ 他競技団体様の理事・評議員体制の構築方法、プロセスなどを伺うことができ大変参考になりました。 ▶ 他競技団体の状況が背景を含めてよく理解できた。今後直接的にコミュニケーションが図れる関係が構築できた。 	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各団体の全体感が把握できて大変ためになりました。 ▶ オリとパラの違いが明確に知ることができました。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 財務分析自体は非常にわかりやすかった。時間的にこれ以上突っ込んだ内容とするのは難しかったと思うが、限られた財源の効果的な活用已成功している事案の紹介等をしていただけるとより参考になったと思う。 ▶ 自身のNFの位置が認識できたから。 ▶ 身につまされる話で、弊会の現状と対比しながら拝聴できたため。 <p>【どちらでもない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 数字としての取りまとめは大変参考になりました。財務状況から見て、「自主財源確保の為に動くべき」「補助金・助成金の取りこぼしは避ける」など更に示唆があるとより参考になると思いました。 <p>【多少不満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ もう少し深掘りした分析・評価なども聞いてみたかったです。

第2回ワークショップのアンケート結果

→ 他団体の事例紹介を踏まえ、ガバナンスコードの本質捉えるきっかけとなっていた

	原則2への対応（フェンシングの事例紹介）の満足度	ワークショップの満足度
回答	<p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>	<p>■ きわめて満足 ■ 多少満足 ■ どちらでもない ■ 多少不満 ■ 非常に不満</p>
自由記述（回答理由）	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ガバナンスコードは準拠することが目的ではなく、課題や目的を達成するためのツール」という言葉が非常に印象に残った。 ▶ 参加して質問を沢山させていただき、学びになりました。資料もありがとうございます。資料があると、団体内で共有し、それが理解につながるので大変助かります！ ▶ 不祥事を乗り越えて改革するリアルな声が聴けて良かった。 ▶ 他の競技団体の工夫がよく分かった。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 改めて、原則2を学びなおします。 ▶ フェンシング協会様の役員選考委員会に現理事2名を除いて事務局も一切入らないという徹底したスタンスは大変参考になりました。「競技のことや事業のことがわからないと適切な判断ができないだろう」という思いからこれまで事務局機能も内部に置き、会長も選考委員会に参加する規則となっておりますが、改めて見直しをする必要性を感じることができました。 	<p>【きわめて満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 皆様の生の意見が聞けて良かったです。 ▶ 他の団体の現状を伺うことができ、どの団体も同様な問題を抱えていることがわかった。また、それらの問題に対して高い意識をもって取り組んでいる姿勢を知ることにより、自身の取り組み方を見直す端緒となった。 ▶ 本音ベースで各団体の方とお話出来たのが非常に有意義だった。 ▶ 他の団体の状況を生の声で聴くことができたため。 ▶ 各団体の努力と、苦悩が理解できた。各団体の役員（理事・執行役員）に聞いてほしいと強く感じました。 <p>【多少満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 様々な話が直接できたこと。 ▶ 色々な連盟と話せてよかった。

第2回ワークショップのアンケート結果

→ ワークショップは各団体の学びの場となっており、行動変容のきっかけとなっている

	ワークショップの理解度が深まったか	ワークショップの学びを活かそうと思うか
回答	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない</p> <p>■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない</p>	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない</p> <p>■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない</p>
自由記述 (回答理由)	<p>【そう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自団体のレベルに合わせて一つずつ取り組んでいくものという認識が共通でよかったです。 ▶ 他団体の意見徴収は有益でした。 ▶ 参考になった事を、生かしたい。 <p>【ややそう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ガバナンスコードは重要な指針であるものの、組織運営上、本当に適切な運営がなされるか否か？という軸で俯瞰して見る必要性に気づけました。 ▶ 数団体の事例だけでなく、ポイントを絞って全団体について知りたいと思った。(良い例も、困難な例も含め) なんでも新しい試みをする場合、上手くいくこともそうでないこともあることを、GC作成担当者以外のNF役職員に知ってもらうことは重要。往々にして、GCの自己説明資料記載事項や、解決できない課題について、それを改良したかどうか結論をすぐに求められる傾向があるが、GCの目的の1つとしてスポーツ文化の根幹を変えていくことがある認識を皆にもってもらいたい。文化を変えるのは数十年単位でもあるので、そのあたりのスケール感も一緒に共有いただけたありがたい。また、ベストプラクティスだけだと、できないのは、そのこの団体とはリソースが違うから・・・で終わってしまうところもあるかなと思った。 	<p>【そう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 理事の任期が短すぎる、女性時確保の難しさ、など多くのNFが同じような問題に直面していることが分かった。上がったアイデアを参考にして対応策を検討していきたいと感じた。 ▶ 原則2の完全な準拠にはまだまだ遠い状況ではあるが、意識を常に持ち続けることで状況の改善につなげていくことが必要であると考えているため。 ▶ 私は理事会などの下のレイヤーにいるので、取組みをうけ、経営にもよいと思われる提案をするという立場にあるが、そういう意味で生かしていきたいです。 ▶ 事務所で事務局長・総務担当にすぐに情報共有しました。 <p>【ややそう思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フェンシング協会様の理事の公募について、自組織での理事選考の選択肢の一つとして提案してみたいと思いました。

第2回ワークショップのアンケート結果

	説明会内で質問できなかったことや今後の相談・要望等	今回のワークショップの運営に対するご意見
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アスリート委員会について、複数の団体でどのようにしているか知りたいし、その実情をできたら共有していただきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ いつもとても有意義な企画をありがとうございます。ファシリテーターがいることで皆気持ちよく話せてとても良いと感じます。今後も宜しく願い致します。 ▶ 沢山お話ができてとても助かりました。ありがとうございました！ ▶ 担当理事や役員が参加しなければならないワークショップや研修会が必要なのでは？とつくづく感じました。 ▶ ワークショップの時間が物足りなかったのでいわゆるフリートークの時間をもっと増やして頂けると、より一層コミュニケーションと議論が深まったと思う。

3

中央競技団体の 財務情報のとりまとめ



3.1 対象団体とデータ収集結果

財務諸表の収集結果

- 121団体中118団体から財務諸表を収集しました。

本事業期間中、中央競技団体（121団体）のすべての公式ホームページを閲覧した。直近年度の財務諸表の掲載状況により、必要に応じて、各団体に直接、メールや電話によりコンタクトし、121団体中118団体の財務諸表を収集した。

▶ 収集対象

直近年度の財務諸表

▶ 収集方法

- ① 公式ホームページに掲載されている財務諸表をダウンロードした。
- ② ①による財務諸表の収集ができない場合、メールならびに電話で各団体に連絡を取り、財務諸表をメールにて送付いただいた。

▶ 対象団体

公益財団法人日本スポーツ協会に加盟する中央競技団体（※準加盟団体を含む。）

公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する中央競技団体（※準加盟団体・承認団体を含む。）

公益財団法人日本パラスポーツ協会に加盟する中央競技団体のうち、日本パラリンピック委員会に加盟する団体

▶ 収集結果

収集済み 118団体

未収集 3団体



3.2 財務狀況

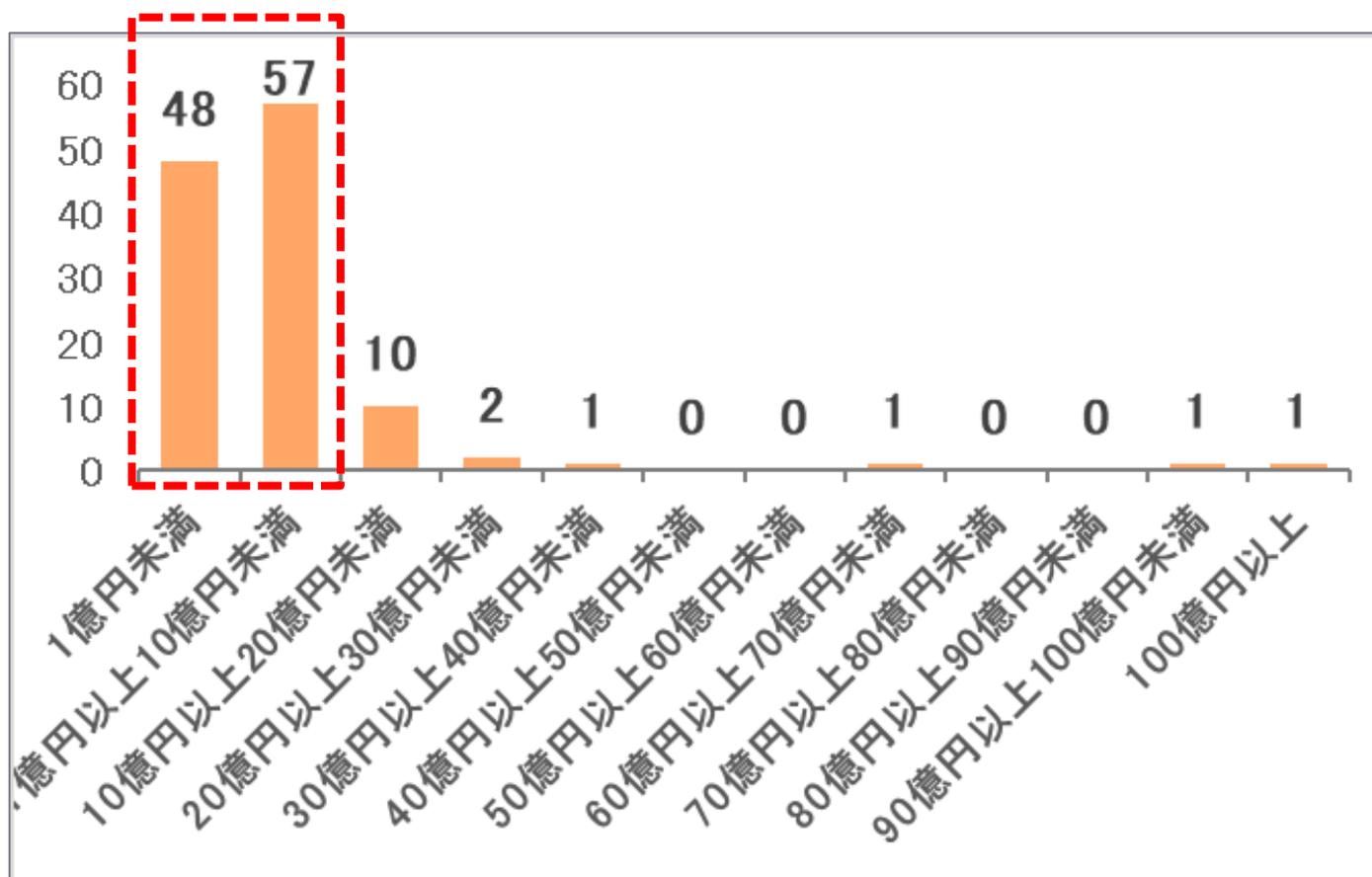
令和5年度経常収益

(1) 中央競技団体の収益規模の分布

経常収益

収益10億円未満の中央競技団体（NF）が86.8%を占める。

中央競技団体が経常収益10億円を超えるには、大きな壁が存在することが推測される。

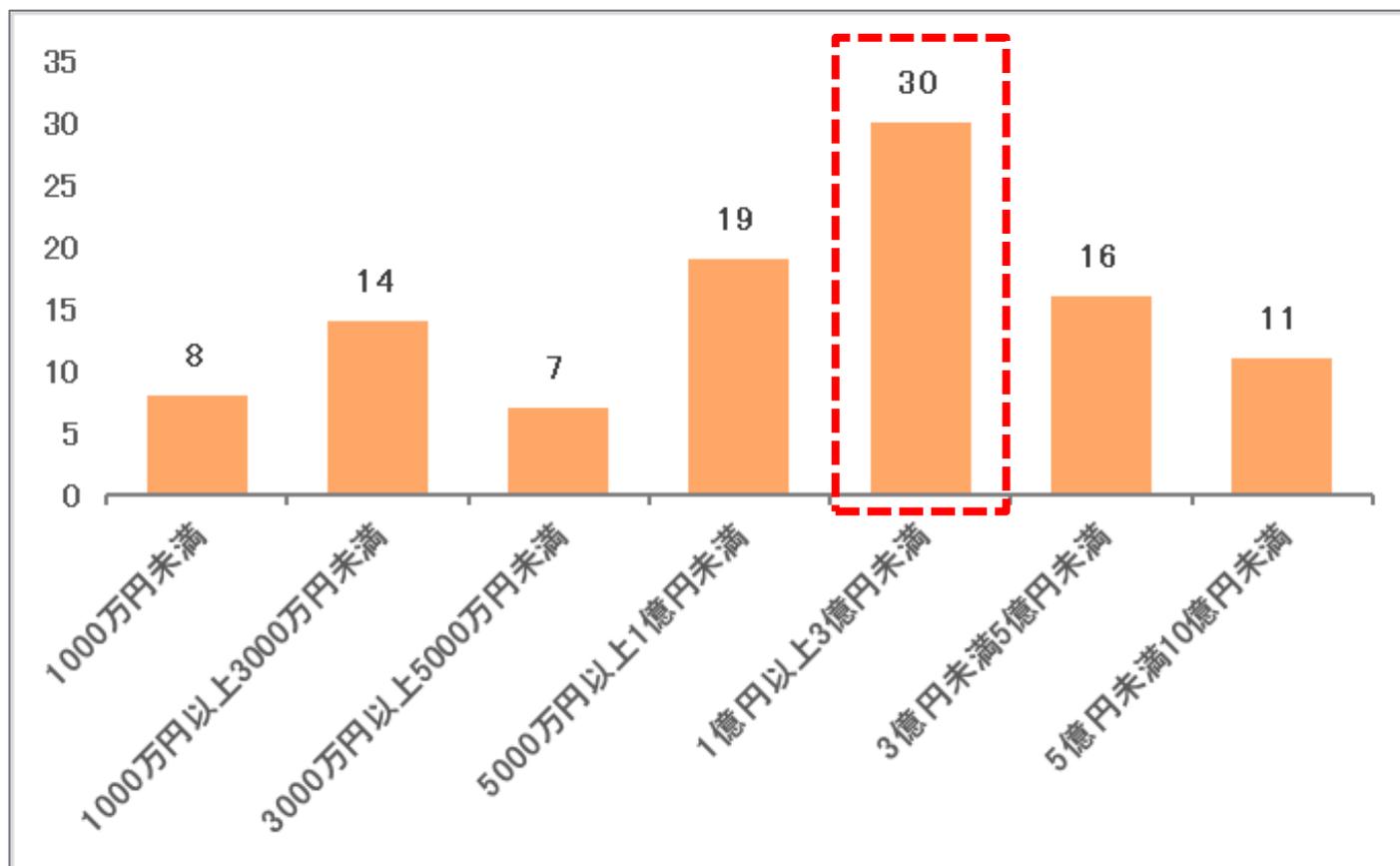


令和5年度経常収益

(2) 中央競技団体の収益規模の分布 (10億円未満)

経常収益

経常収益10億円未満の中央競技団体に絞ると、1億円以上3億円未満が中心となっている。



令和5年度経常収益

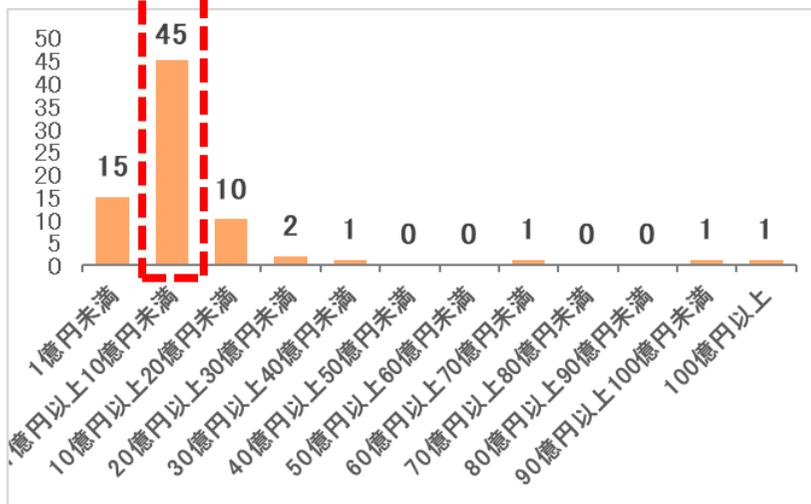
(3) 健全者団体・障害者団体別の収益規模の分布

経常収益

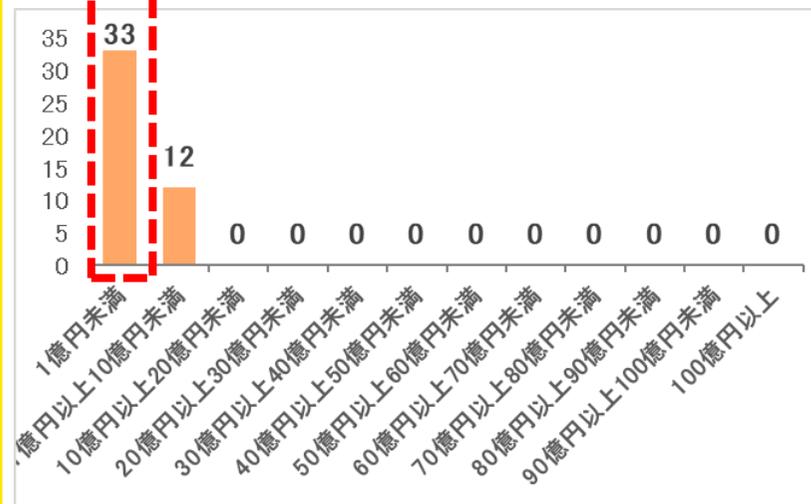
中央競技団体（健全者団体）は、収益1億円から10億円が多い傾向にある。

中央競技団体（障害者団体）は、収益1億円未満が中心となっている。

中央競技団体（健全者団体）



中央競技団体（障害者団体）



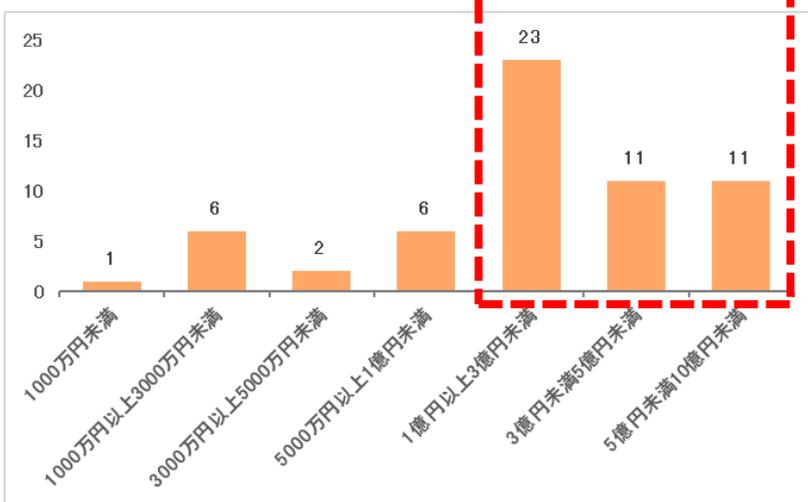
令和5年度経常収益

(4) 健全者団体・障害者団体別の収益規模の分布（10億円未満）

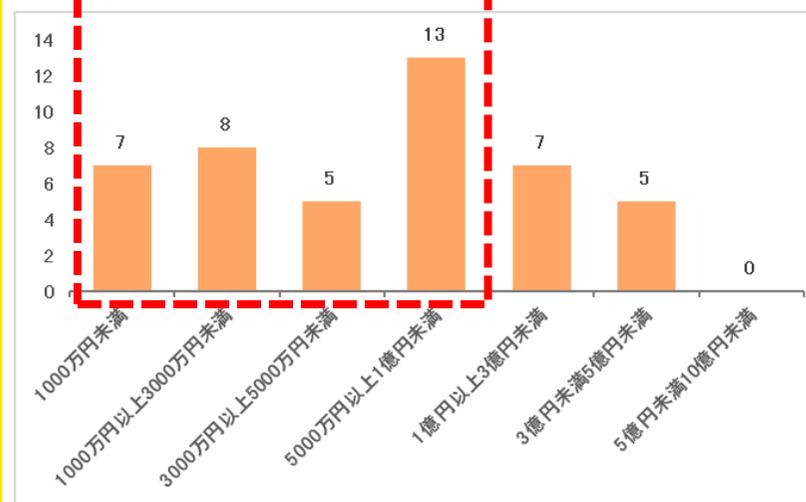
経常収益

経常収益10億円未満の中央競技団体に絞ると、健全者団体は1億円以上10億円未満が中心となっている一方、障害者団体は1,000万円以上1億円未満が中心となっており、オリパラで明確な収益差が存在している。

中央競技団体（健全者団体）



中央競技団体（障害者団体）



令和4年度と令和5年度の経常収益の比較

(1) 中央競技団体の経常収益の平均値・中央値

経常収益

令和4年度に比べて、平均値・中央値ともに増加している。

R4経常収益 (円)

平均値	631,270,687
中央値	152,364,244

R5経常収益 (円)

平均値	671,826,796
中央値	162,695,326



令和4年度と令和5年度の経常収益の比較

(2) 中央競技団体の経常収益の平均値・中央値（10億円未満）

経常収益

令和4年度と令和5年度を比較した際、顕著な変化は見られなかった。

R4経常収益（円）

平均値 195,414,226

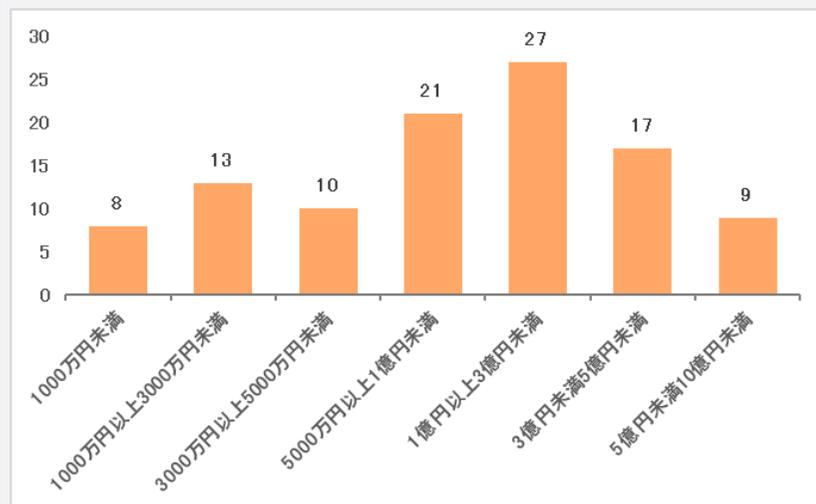
中央値 112,759,247

R5経常収益（円）

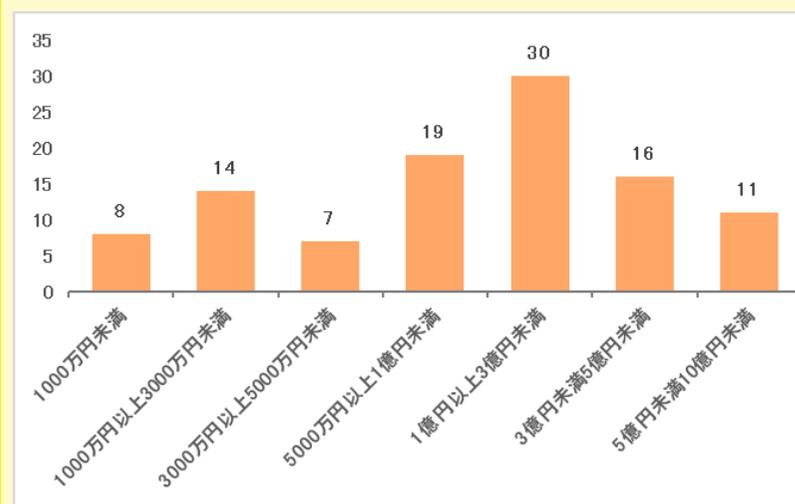
平均値 204,339,906

中央値 129,916,240

令和4年度



令和5年度

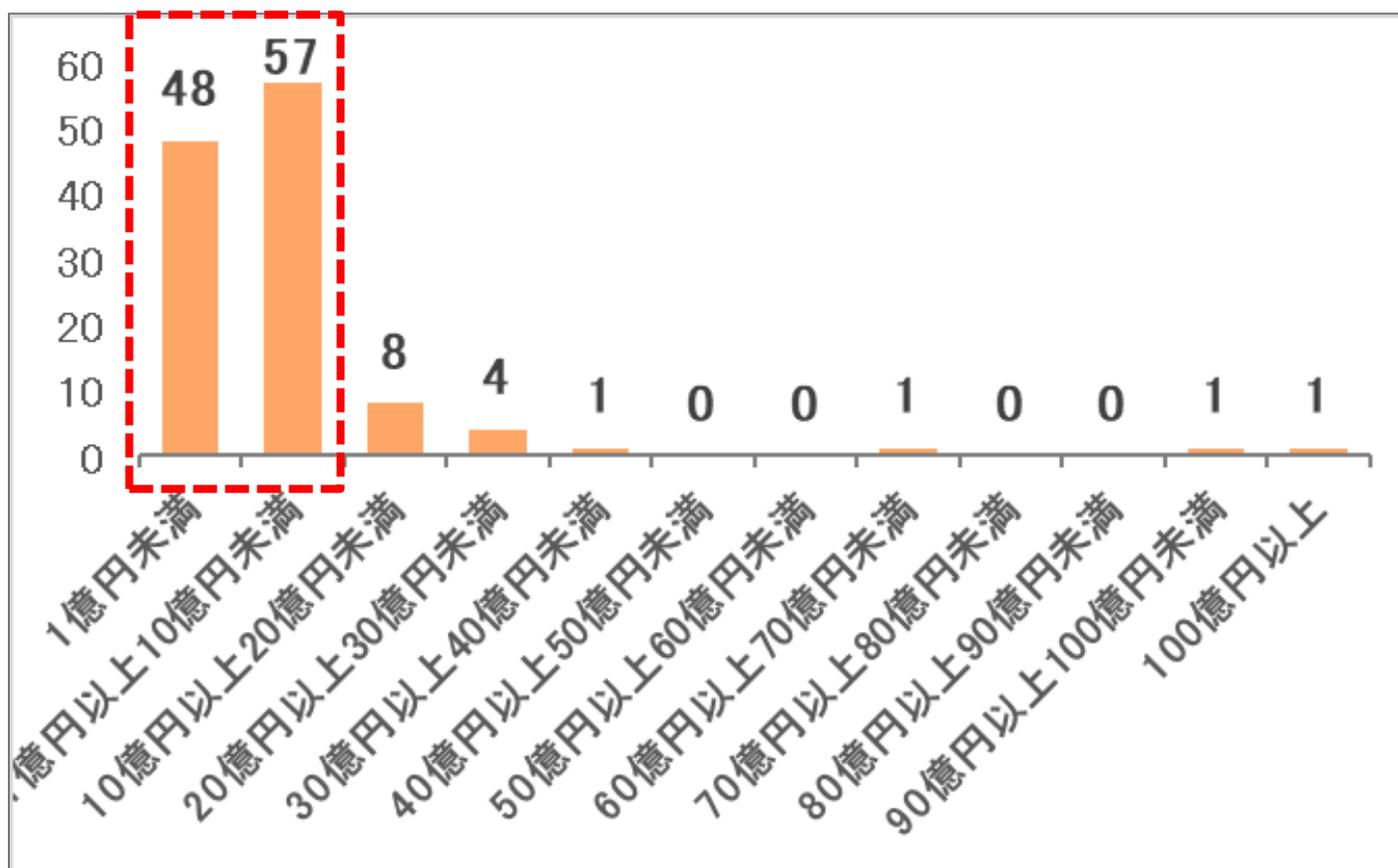


令和5年度経常費用 (1) 中央競技団体の費用規模の分布

経常費用

費用10億円未満の中央競技団体が86.8%を占める。

収益と類似しており、中央競技団体が経常費用10億円を超えるには、大きな壁が存在することが推測される。

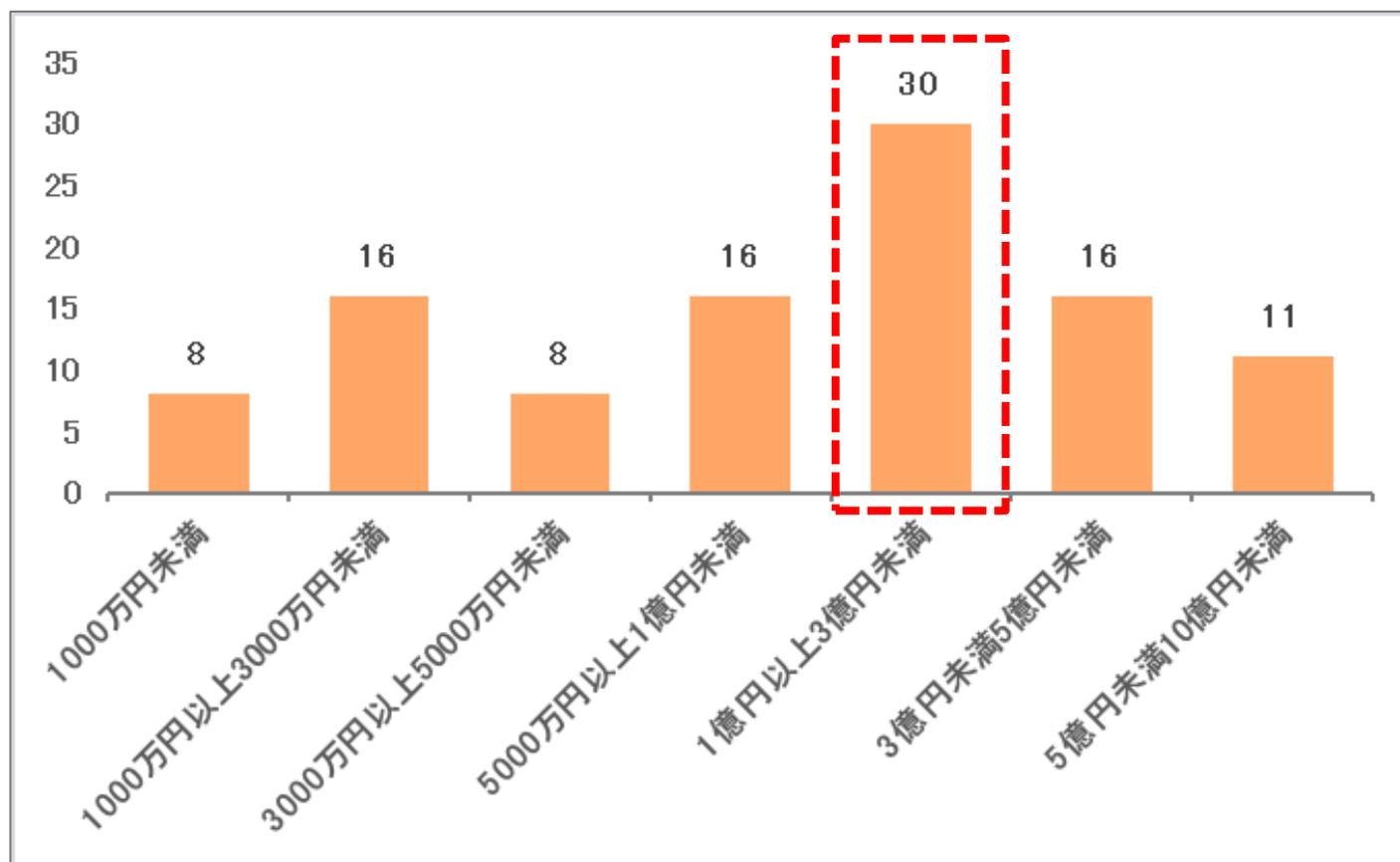


令和5年度経常費用

(2) 中央競技団体の費用規模の分布 (10億円未満)

経常費用

経常費用10億円未満の中央競技団体に絞ると、1億円以上3億円未満が中心となっており、収益と類似している。



令和5年度経常費用

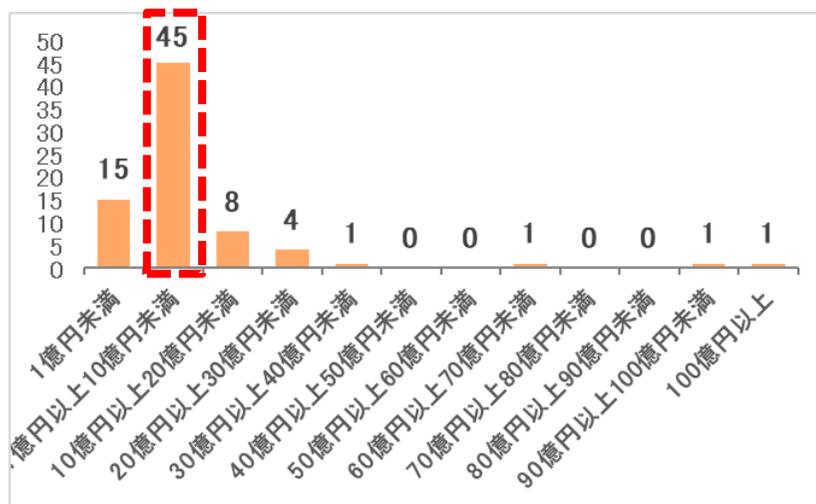
(3) 健常者団体・障害者団体別の費用規模の分布

経常費用

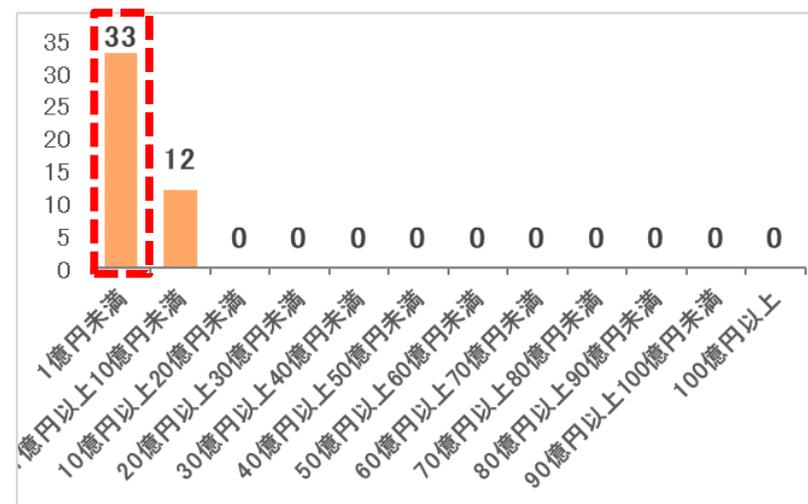
中央競技団体（健常者団体）は、費用1億円から10億円が多い傾向にある。

中央競技団体（障害者団体）は、費用1億円未満が中心となっている。

中央競技団体（健常者団体）



中央競技団体（障害者団体）



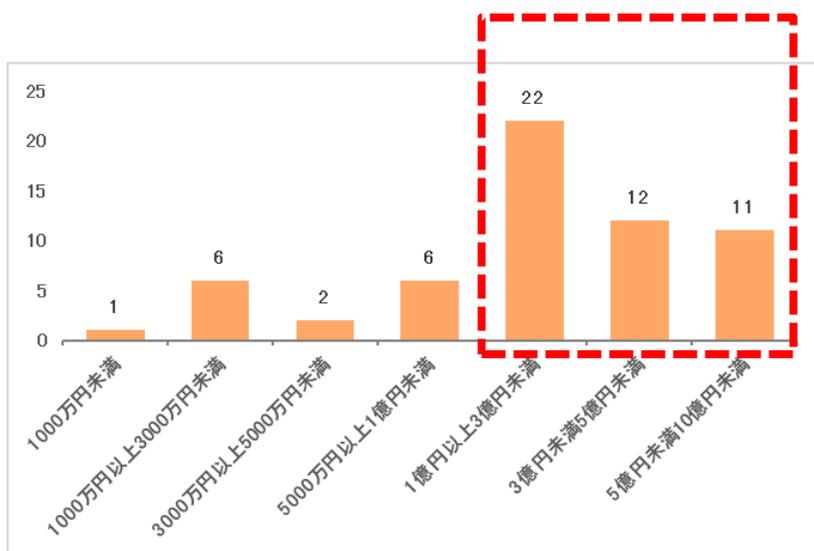
令和5年度経常費用

(4) 健全者団体・障害者団体別の費用規模の分布（10億円未満）

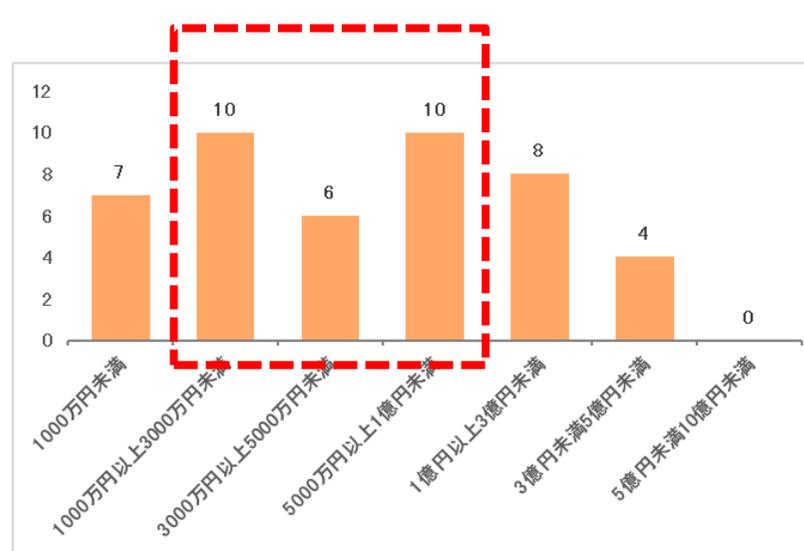
経常費用

経常費用10億円未満の中央競技団体に絞ると、健全者団体は1億円以上10億円未満が中心となっている一方、障害者団体は1,000万円以上1億円未満が中心となっており、オリパラで明確な収益差が存在している。

中央競技団体（健全者団体）



中央競技団体（障害者団体）



令和4年度と令和5年度の経常費用の比較

(1) 中央競技団体の経常費用の平均値・中央値

経常費用

令和4年度に比べて、平均値・中央値ともに増加している。

R4経常費用 (円)

平均値 668,256,661

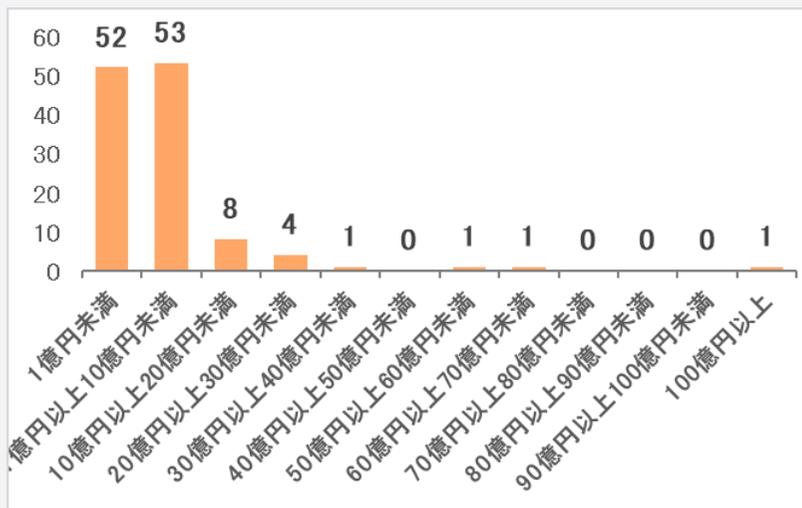
中央値 145,482,805

R5経常費用 (円)

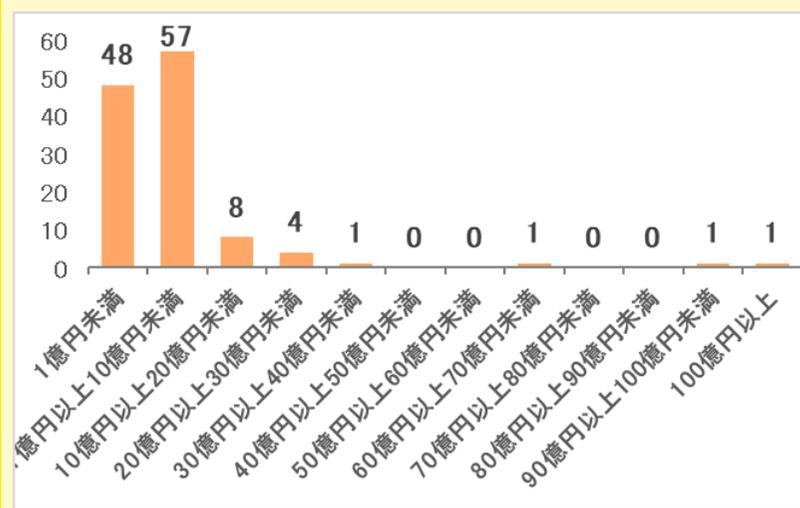
平均値 696,438,486

中央値 165,581,393

令和4年度



令和5年度



令和4年度と令和5年度の経常費用の比較

(2) 中央競技団体の経常費用の平均値・中央値（10億円未満）

経常費用

令和4年度と令和5年度を比較した際、顕著な変化は見られなかった。

R4経常費用（円）

平均値 197,494,105

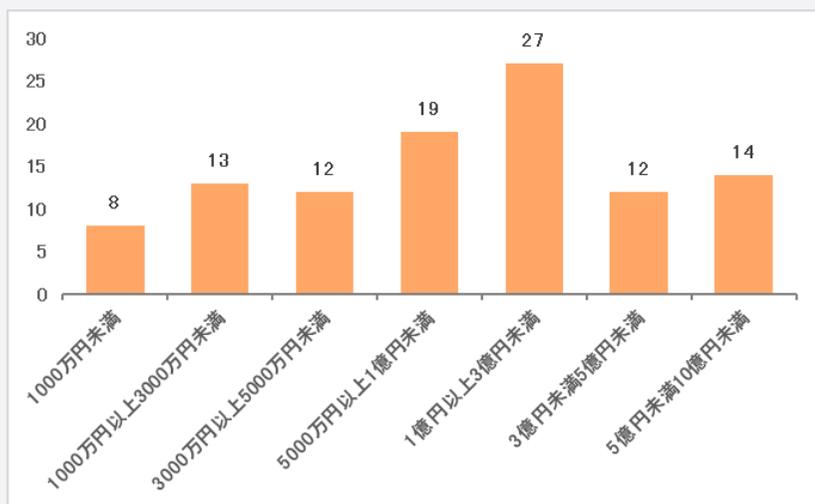
中央値 108,913,441

R5経常費用（円）

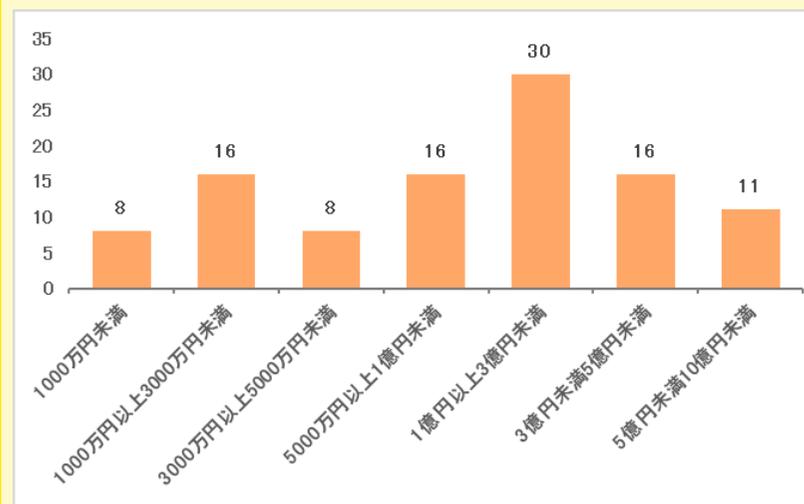
平均値 207,520,036

中央値 123,363,130

令和4年度



令和5年度

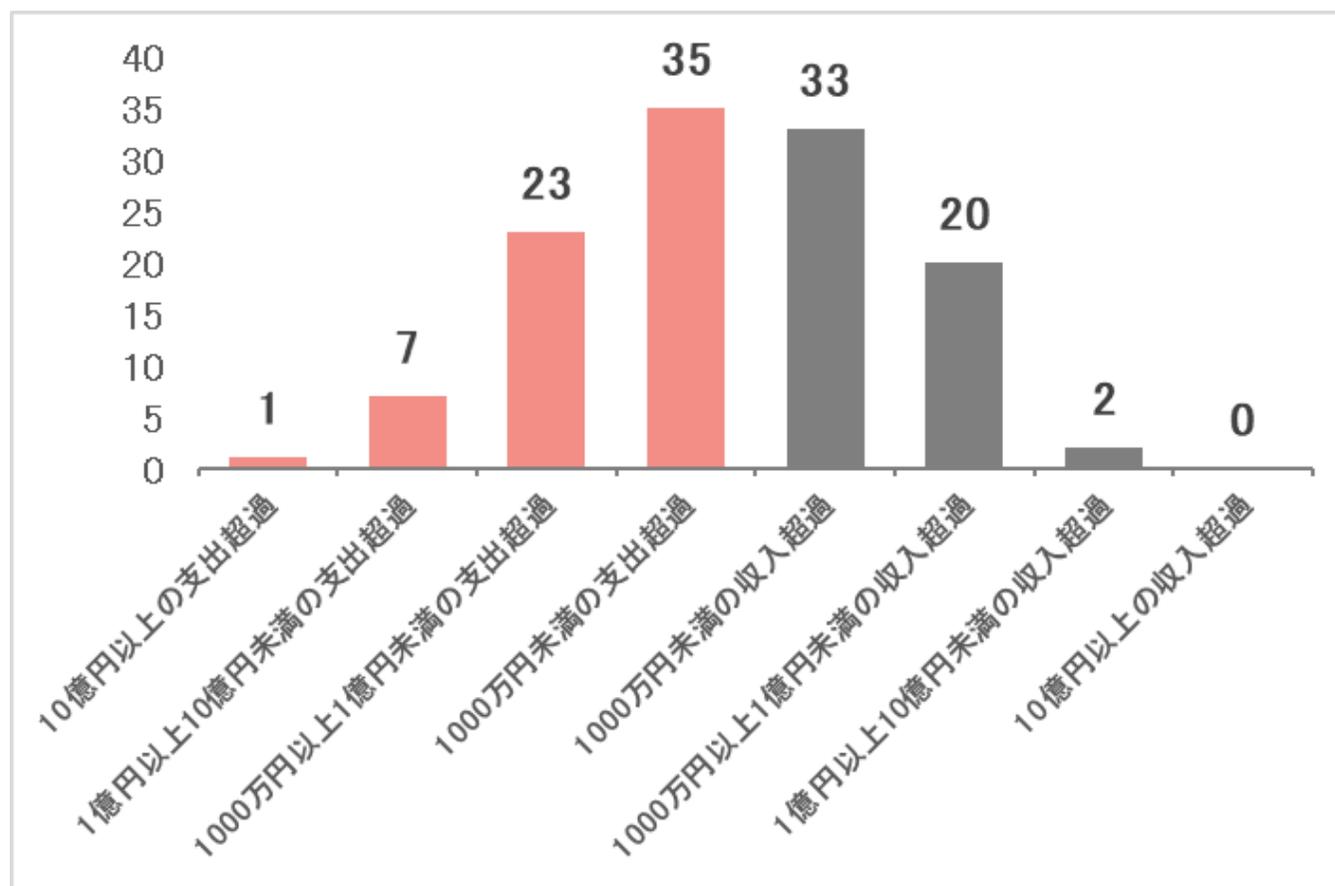


令和5年度 収支バランス

(1) 中央競技団体の収支バランスの分布

収支バランス

中央競技団体全体で、黒字団体が46.3%、赤字団体が53.7%となっている。

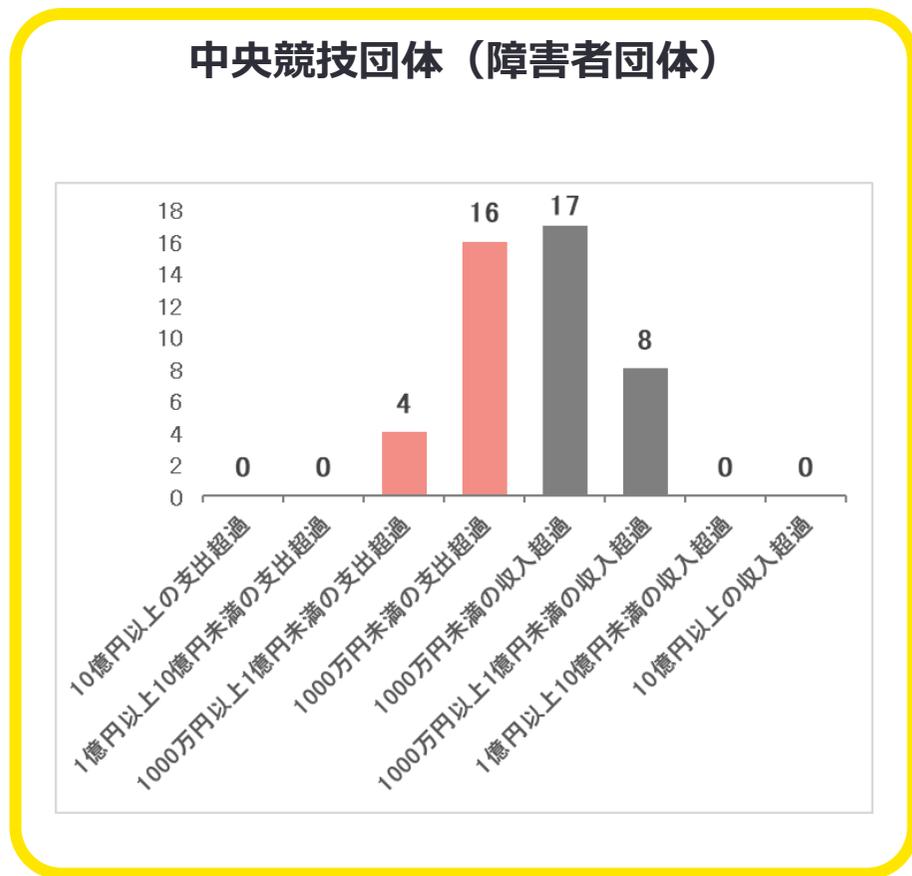
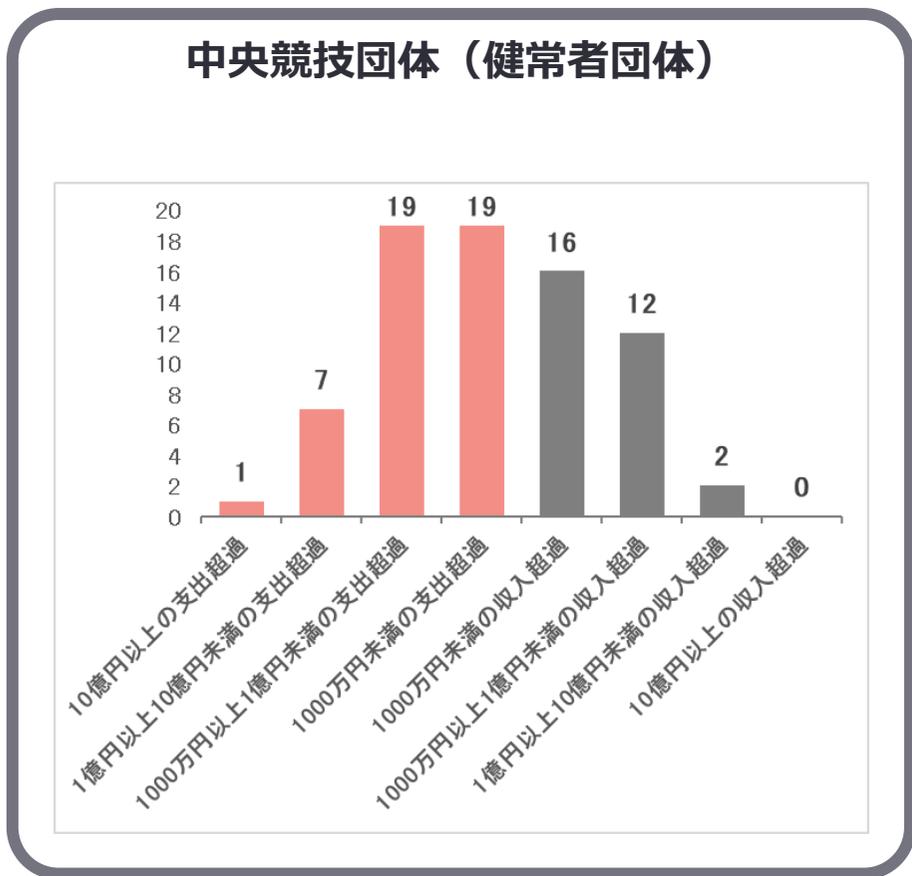


令和5年度 収支バランス

(2) 健常者団体・障害者団体別の収支バランスの分布

収支バランス

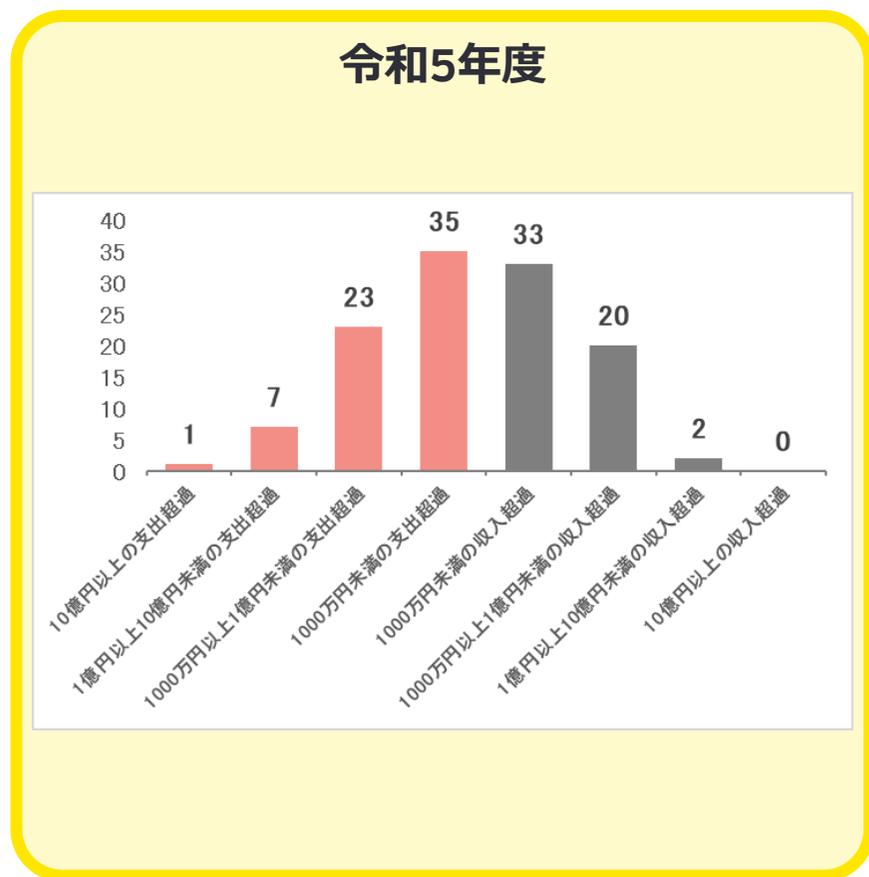
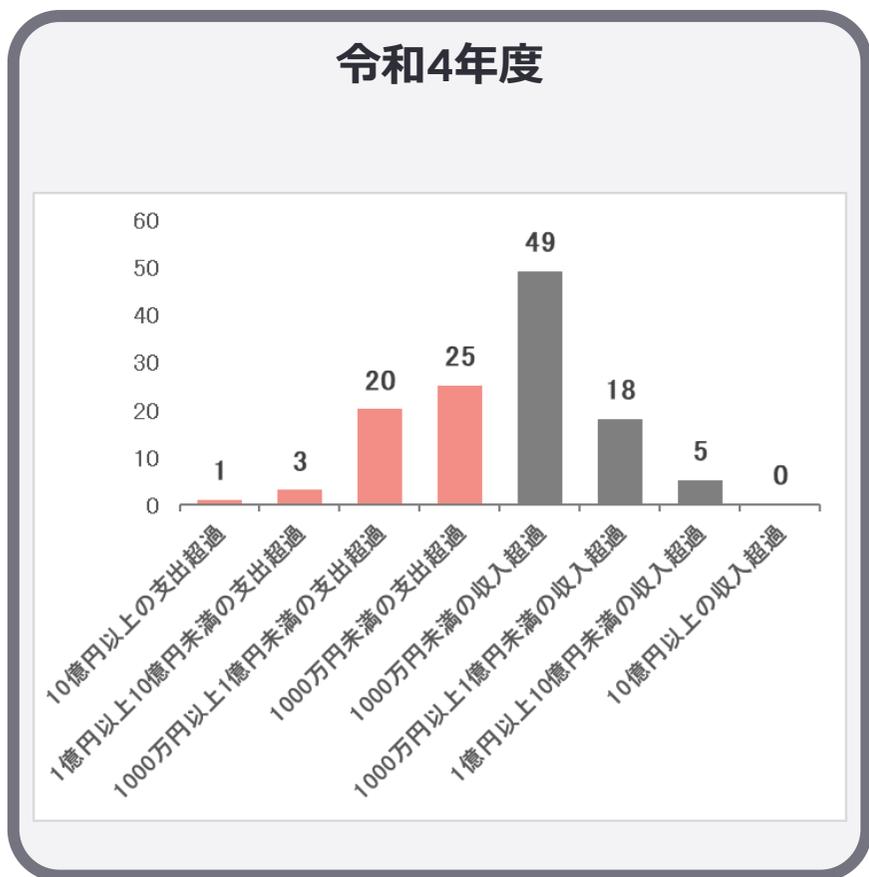
中央競技団体のうち、健常者団体と障害者団体を比較すると、健常者団体は赤字傾向にあり、障害者団体は黒字傾向にある。



令和4年度と令和5年度の収支バランスの比較 (1) 中央競技団体の収支バランスの分布

収支バランス

中央競技団体全体で、令和4年度から令和5年度にかけて、赤字団体が増加している。(49団体→66団体)



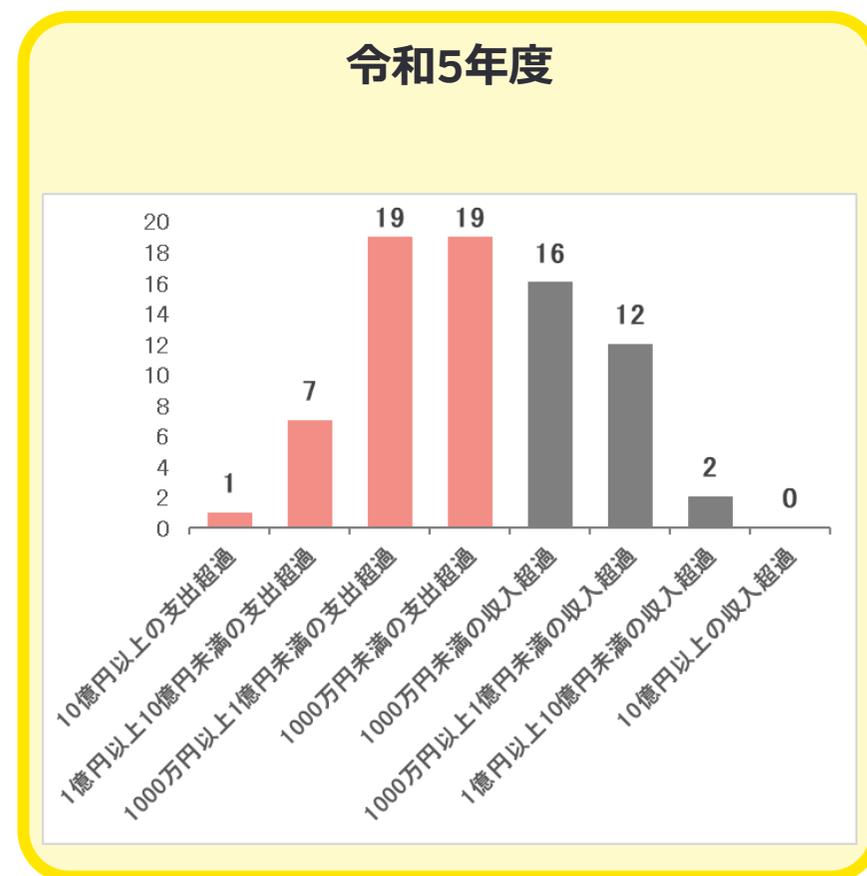
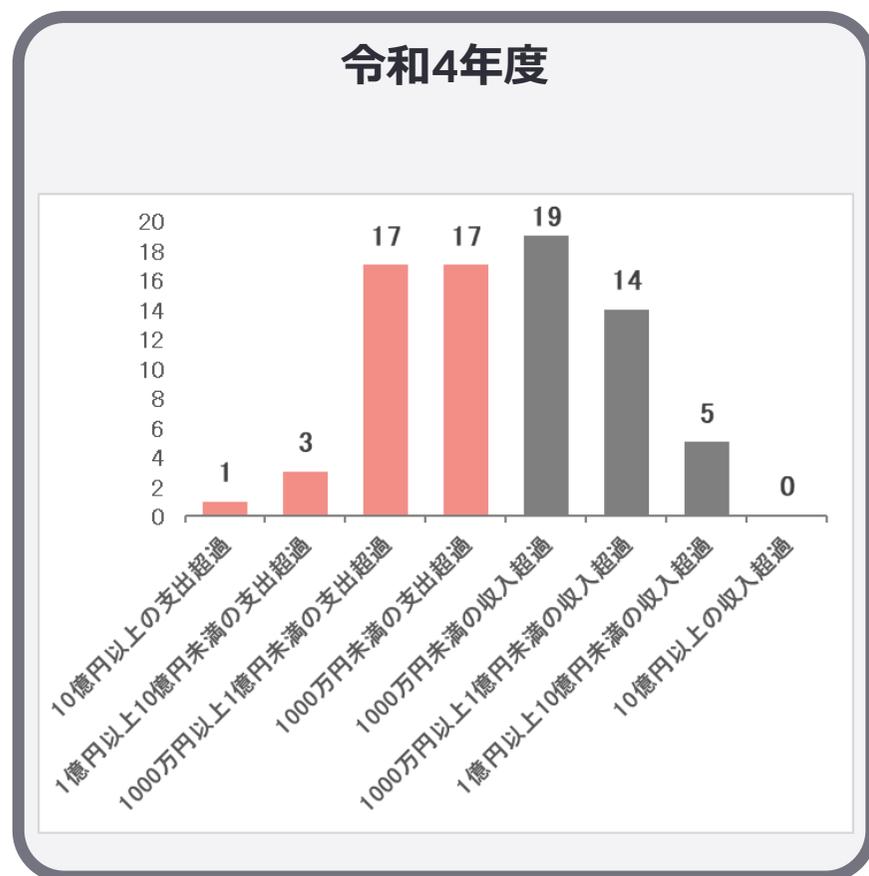
令和4年度と令和5年度の収支バランスの比較

(2) 中央競技団体（健常者団体）の収支バランスの分布

収支バランス

中央競技団体（健常者団体）は、令和4年度から令和5年度にかけて、赤字団体が増加している。

(38団体→46団体)



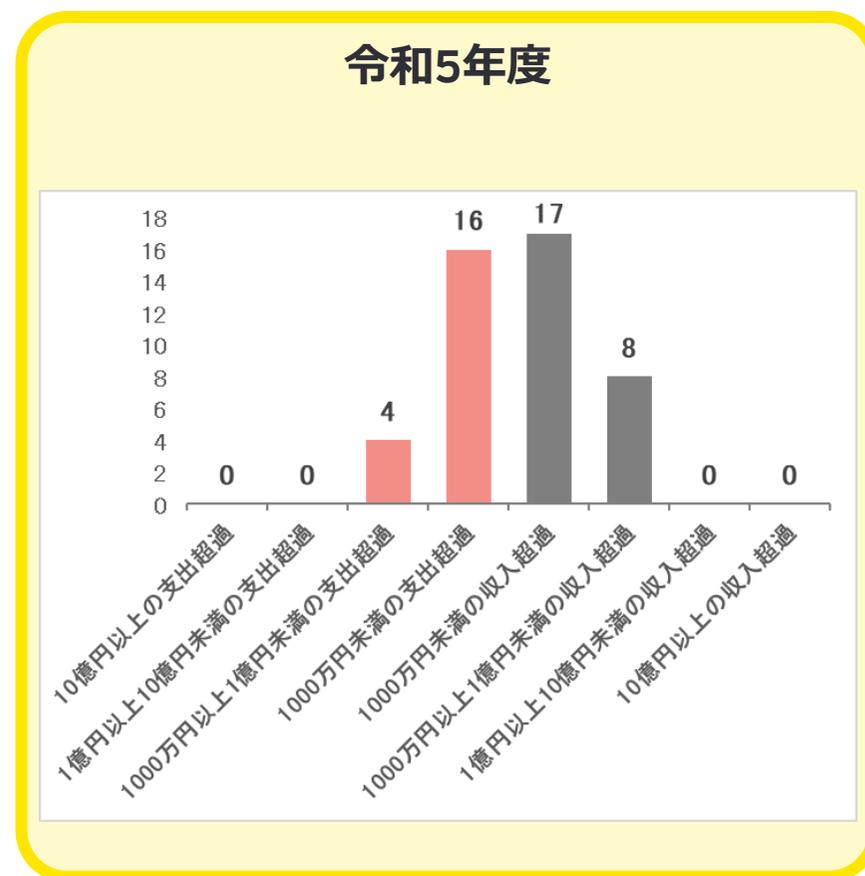
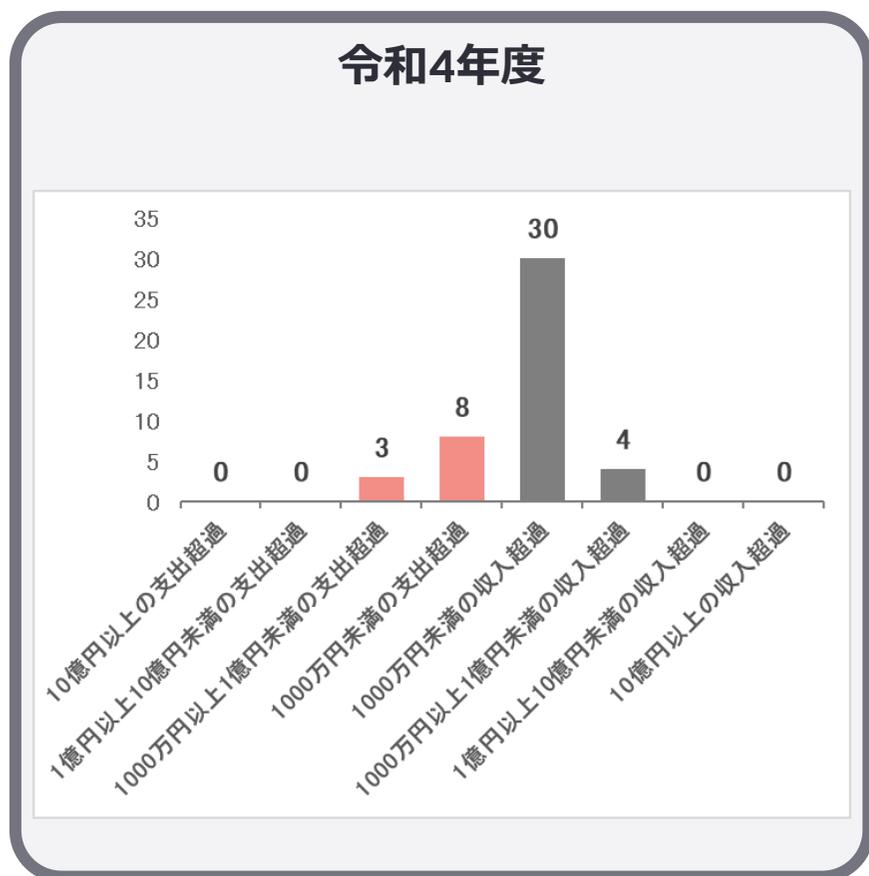
令和4年度と令和5年度の収支バランスの比較

(3) 中央競技団体（障害者団体）の収支バランスの分布

収支バランス

中央競技団体（障害者団体）は、令和4年度から令和5年度にかけて、赤字団体が増加している。

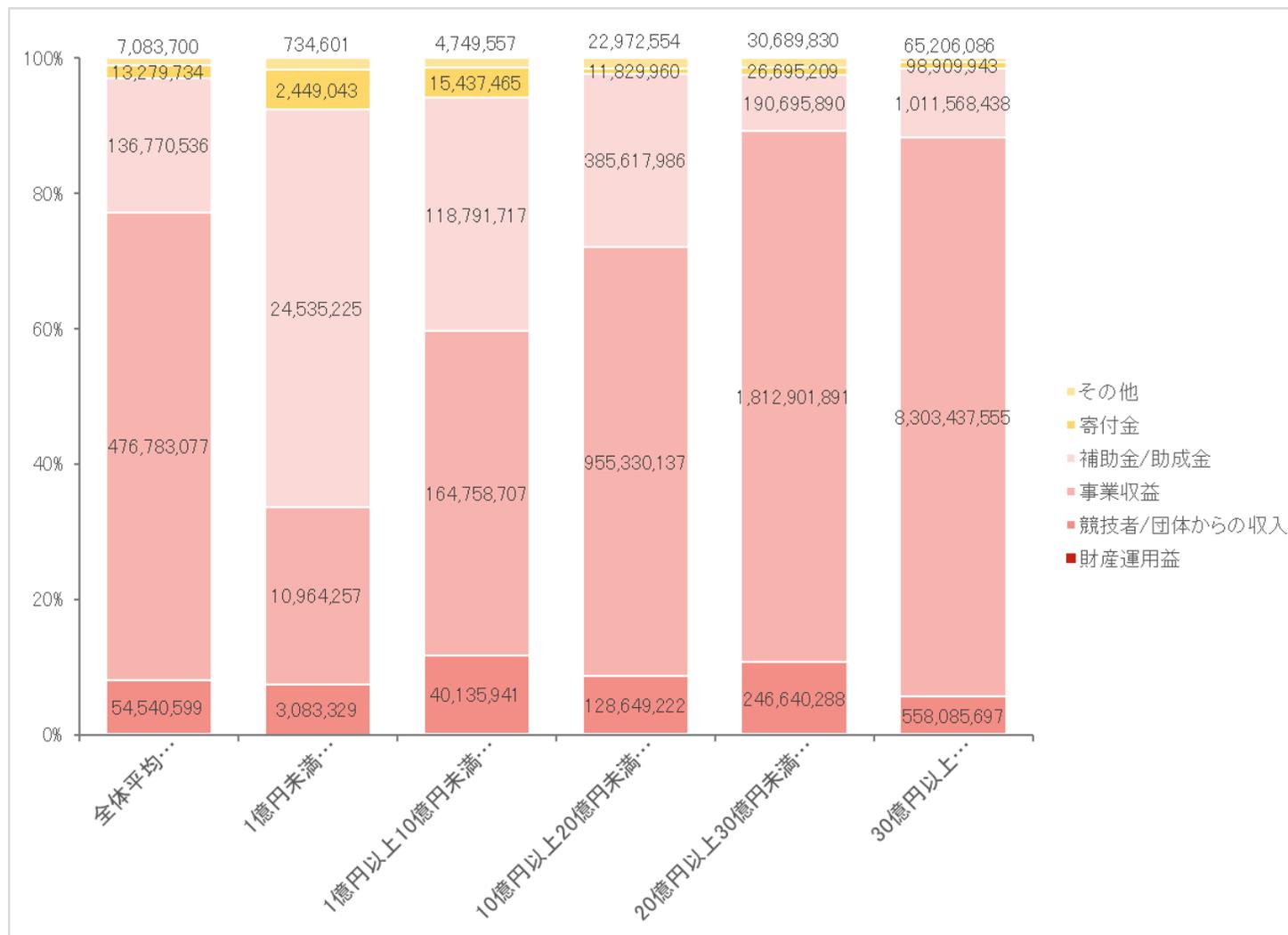
(11団体→20団体)



令和5年度 収益内訳

(1) 中央競技団体の収益規模毎の内訳

収益規模の減少とともに、補助金/助成金への依存度が増加している。

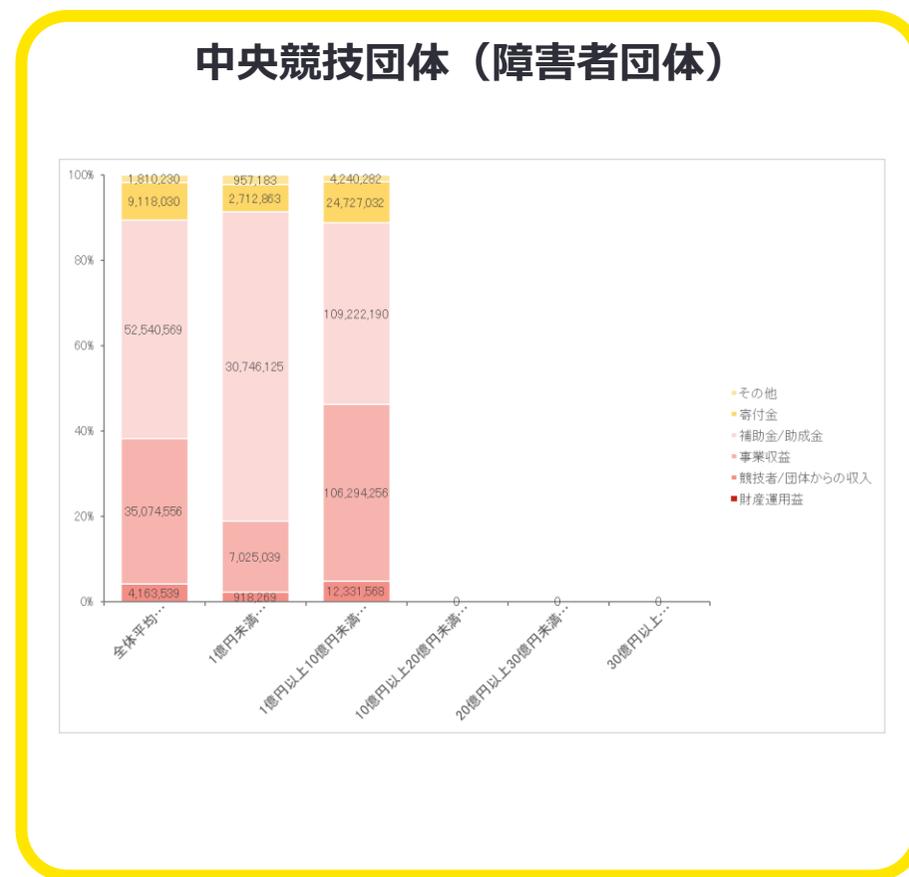
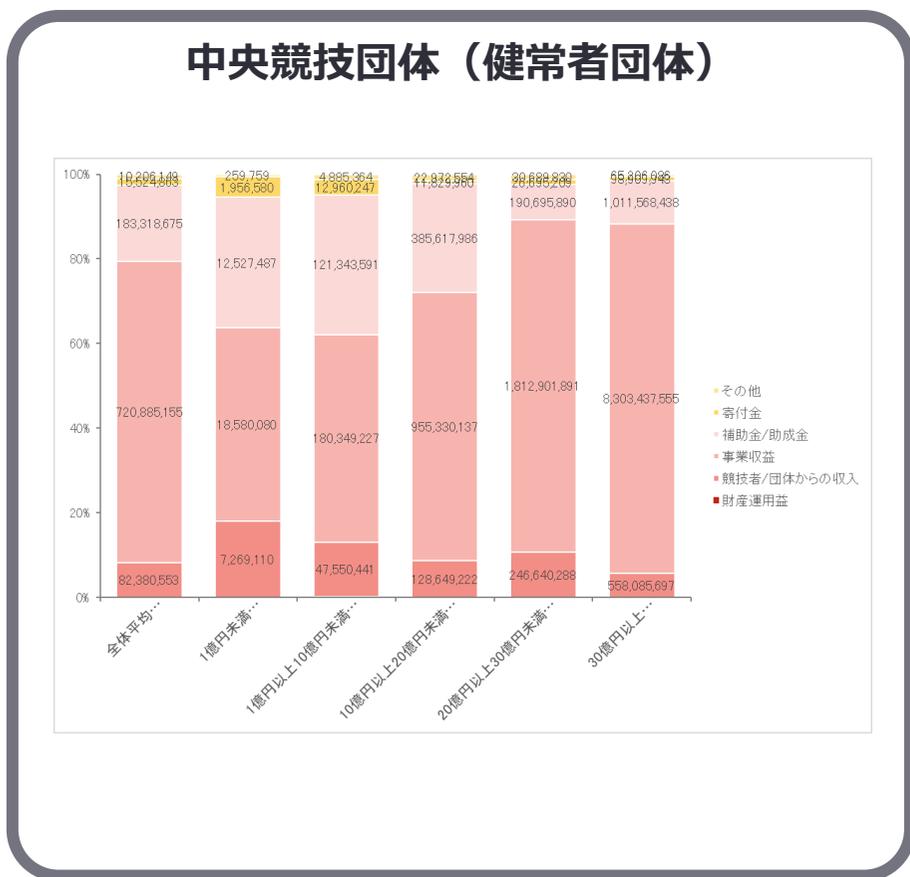


令和5年度 収益内訳

(2) 健常者団体・障害者団体別の収益規模毎の内訳

収益内訳

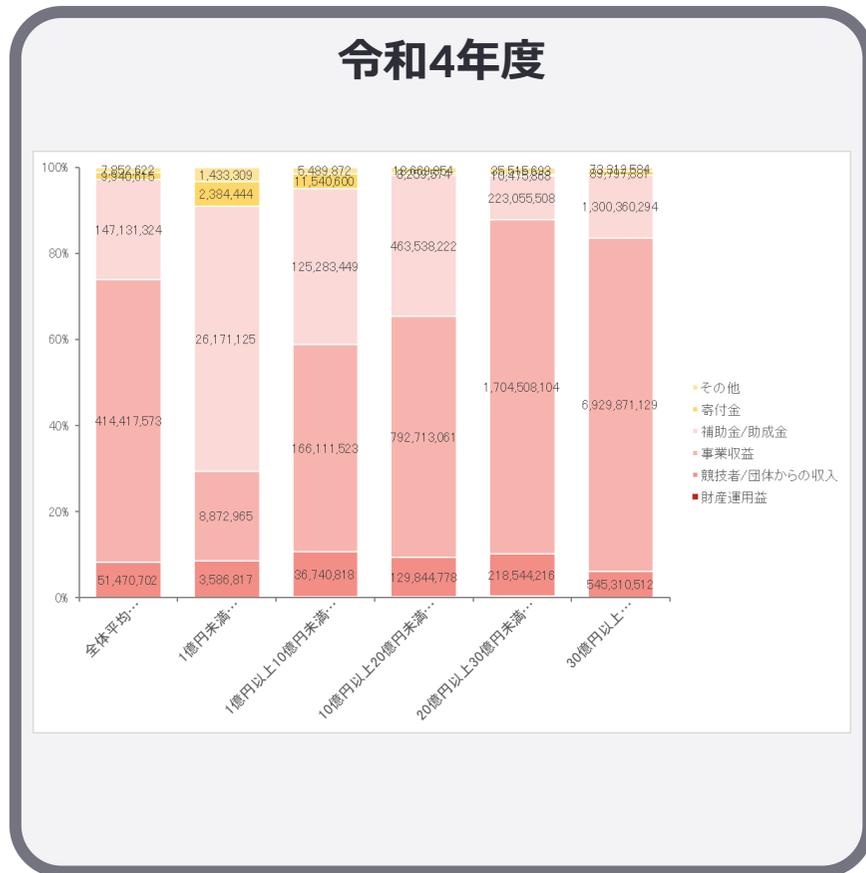
中央競技団体のうち、健常者団体と障害者団体を比較すると、障害者団体の補助金・助成金への依存度が顕著に表れている。



令和4年度と令和5年度の収益内訳の比較

収益内訳

令和4年度と令和5年度を比較した際、顕著な変化は見られなかった。



4

まとめ

説明会・ワークショップでのご意見およびアンケートの結果より

(1) 地方組織等に対するガバナンスの確保に関する理解は前進

説明会・ワークショップでのご意見およびアンケートの結果では、地方組織等に対するガバナンスの確保の重要性について、一定の理解を得られたとの結果を読み取ることができる。ガバナンスやコンプライアンスの向上自体を中央競技団体単体の課題と捉えず、地方組織等まで当事者意識を持ってもらうことが重要だが、一方で対象とするチーム数が多い団体は、費用面・労力面でも二の足を踏んでしまいやすい領域とのコメントがあった。今後は、日本ラグビーフットボール協会のガバナンスハンドブックのように、都道府県協会の協力を得るために関係性の明確化やスポーツガバナンスコードに関するQ&Aを提示していくなど、理解を促進していくこと、また、都道府県協会がガバナンス調査アンケートを粘り強く回答を求め、意見を収集し、積極的にコミュニケーションを取っていくことにより、地方のガバナンス確保の理解が進むと考えられる。

(2) 適切な組織運営の確保に関する情報交換は必須

多くの団体にとって、原則2の関心は高い。中でも女性理事や外部理事、アスリート委員会の構成に対して課題感が強いことがワークショップに対する意見やアンケート結果から読み取ることができる。特に、日本フェンシング協会の事例紹介において、不祥事を乗り越えて改革している部分が参考になったという声や競技のこと・事業のことが分からないと適切な判断ができないという思い込みに対する意識改革を行うなど、好意的な意見が多かった。ガバナンスコードは準拠することが目的ではなく、課題や目的を達成するためのツールとして活用し、組織運営を行う中で適切な運営がなされるか否かというチェック機能としての理解が深まったとの声があり、事例紹介やワークショップが見直しのきっかけとなる可能性があるため、各団体での意見交換や、より具体的な事例紹介は重要であると考えられる。

(3) 競技団体の財務状況に関する情報提供は好評

各団体の状況や健全者団体、障害者団体ごとの財務状況の傾向が明確となり参考になった、という評価が多く得られた。一方で、財務分析自体が分かりやすいものの、限られた財源をいかに効果的に活用しているかの事例紹介など、より踏み込んだ内容を望む声もあった。また、自団体の現状を他団体と比較しながら振り返るきっかけになったという肯定的意見がある反面、財務状況を踏まえた具体的な自主財源の確保策や助成金活用の示唆が不足していると感じる人もいた。競技団体には「自主財源の確保」「事業収入の増加」との共通課題があり、これらに関する示唆や好事例を求めていることが分かった。しかし、各競技団体の財務諸表を横並びで分析したとしても情報が限定されており、かつ、勘定科目等について定義が共通化されていない状況においてその分析には限界があるため、そういったニーズに応えるためには、競技特性（集団、個人、夏季、冬季等）を踏まえながら、好事例を有する競技団体へのヒアリング等による調査が有効であると考えられる。

EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス（存在意義）としています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起（better question）をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EYのコンサルティングサービスについて

EYのコンサルティングサービスは、人、テクノロジー、イノベーションの力でビジネスを変革し、より良い社会を構築していきます。私たちは、変革、すなわちトランスフォーメーションの領域で世界トップクラスのコンサルタントになることを目指しています。7万人を超えるEYのコンサルタントは、その多様性とスキルを生かして、人を中心に据え（humans@center）、迅速にテクノロジーを実用化し（technology@speed）、大規模にイノベーションを推進し（innovation@scale）、クライアントのトランスフォーメーションを支援します。これらの変革を推進することにより、人、クライアント、社会にとっての長期的価値を創造していきます。詳しくはey.com/ja_jp/consultingをご覧ください。

© 2024 EY Strategy and Consulting Co., Ltd.
All Rights Reserved.

不許複製・禁転載

本書には機密情報が含まれます。また、本書に関する一切の権利はEYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社に帰属します。当社の書面による承諾がない限り、第三者への開示を禁じます。

ey.com/ja_jp